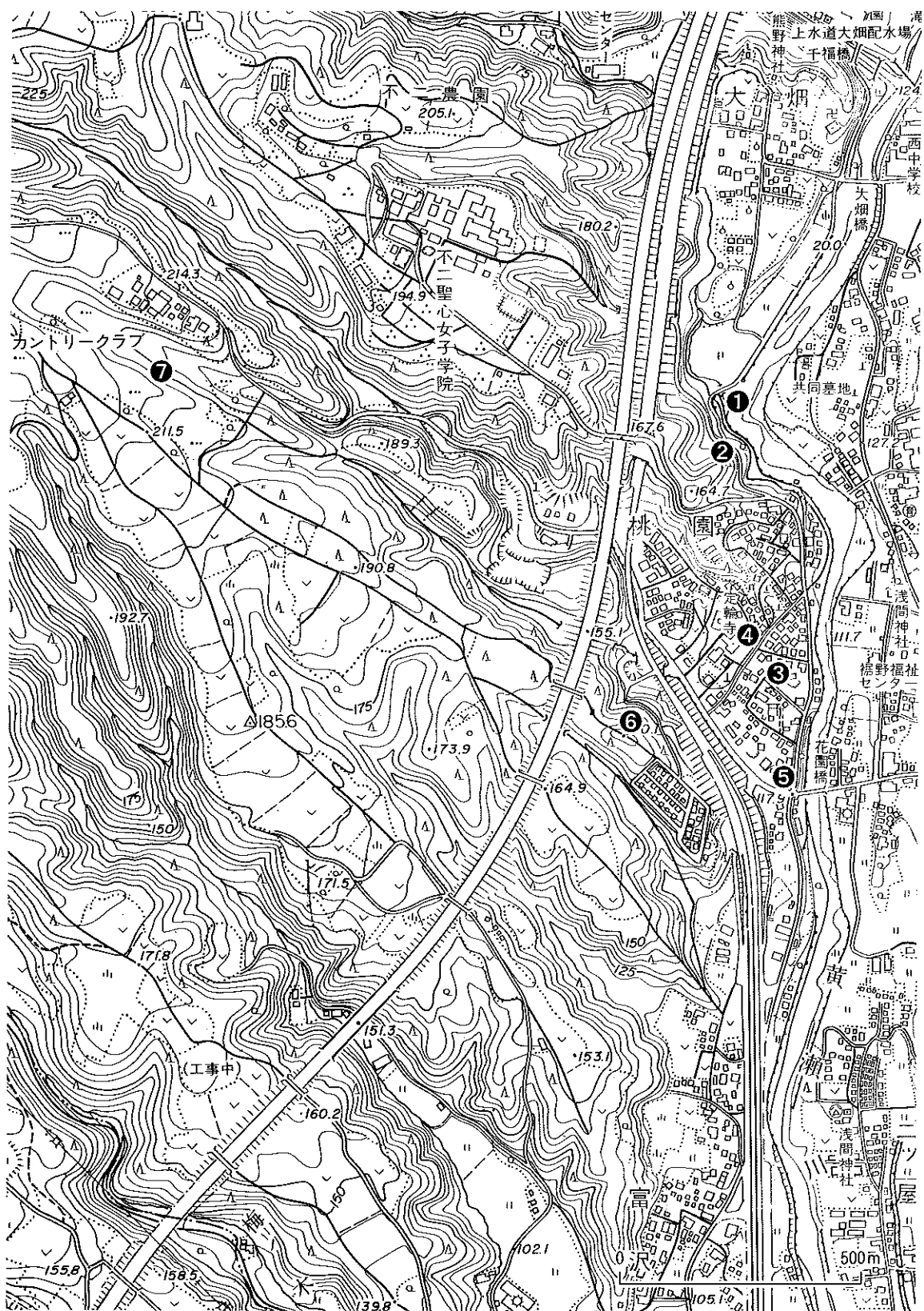
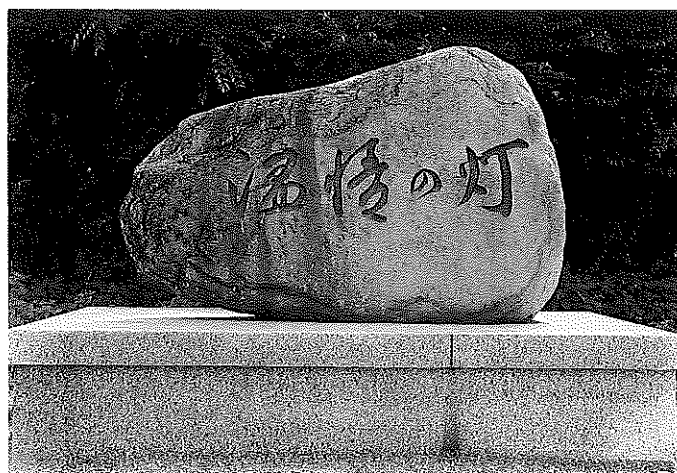


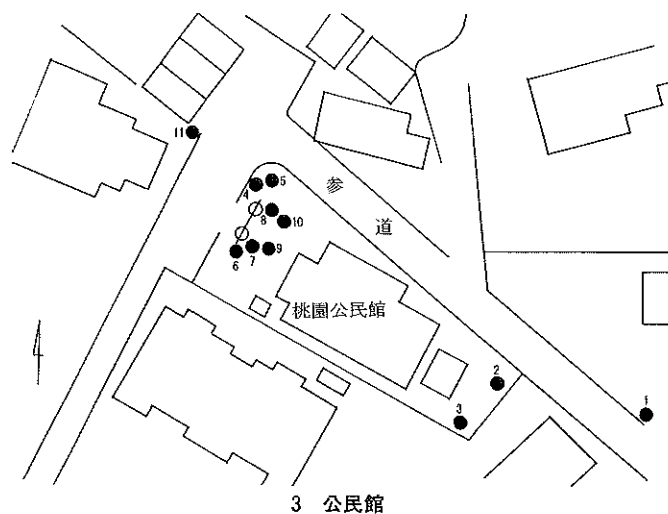
桃園地区



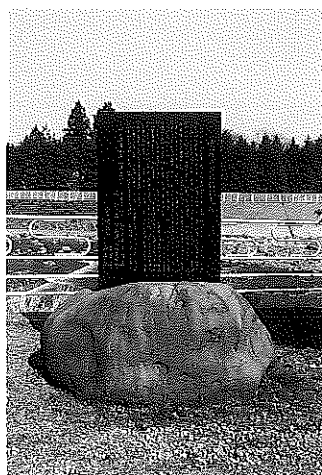
桃園地区



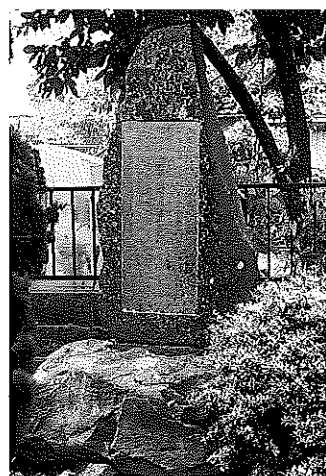
2 碑（温情の灯）



3 公民館



1 碑（富沢穴堰改修記念碑）



3-3 碑（親王古塔発見之記）



3-2 碑（桃園貞純親王塔）



3-1 寺院標石



3-6 手洗石



3-4 幟立



3-8 石灯籠



3-7 石灯籠



3-5 神社標石



3-11 結界石



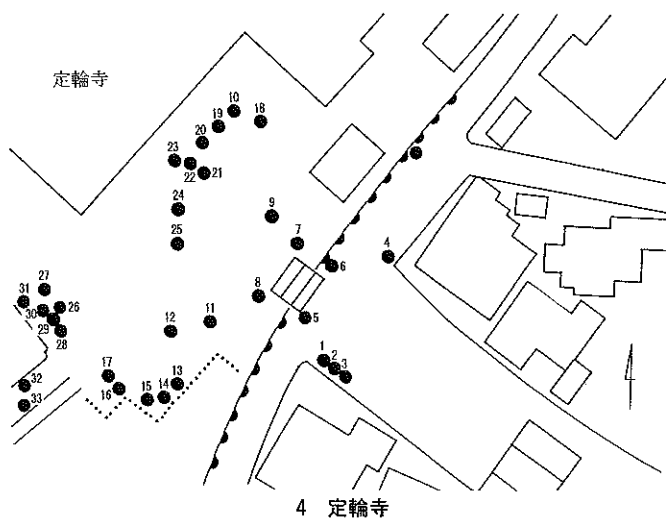
3-10 狛犬



3-9 狛犬



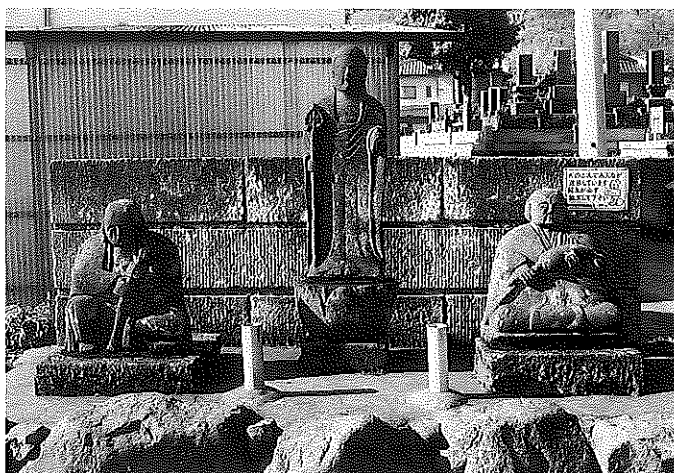
4-4 万壺塔



4 定輪寺



4-6 石造物（石垣）



4 定輪寺入口



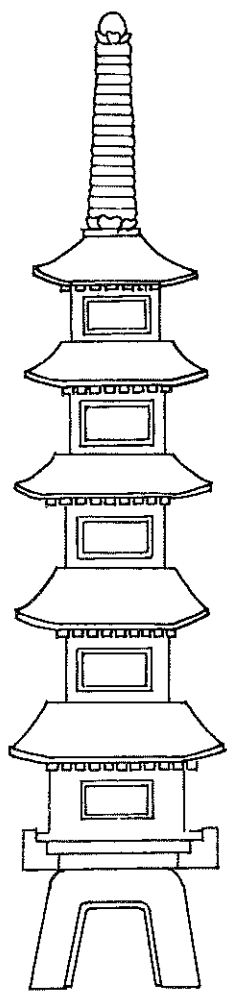
4-3 羅漢



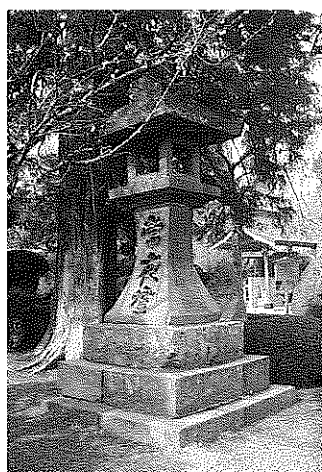
4-2 地藏菩薩



4-1 羅漢



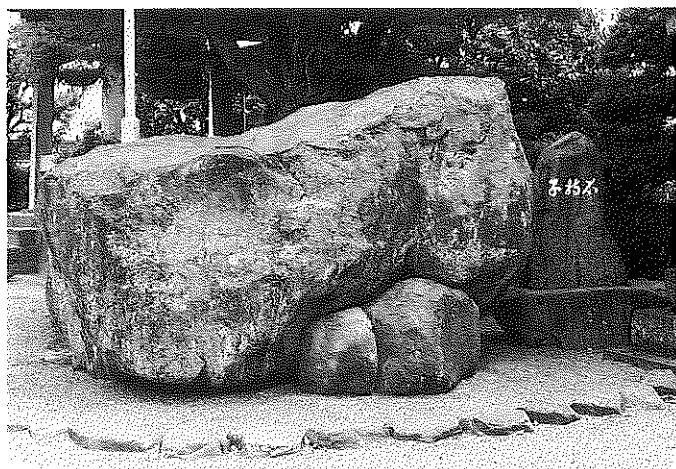
4—10 石灯籠



4—8 常夜塔



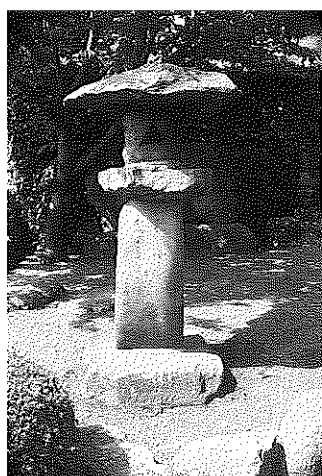
4—7 常夜塔



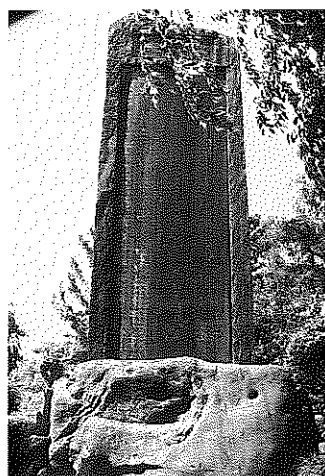
4—9 石造物（子持石）



4—13 文学碑（句碑）



4—12 石灯籠



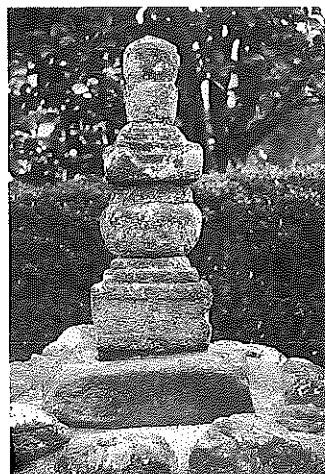
4—11 碑（重興碑）



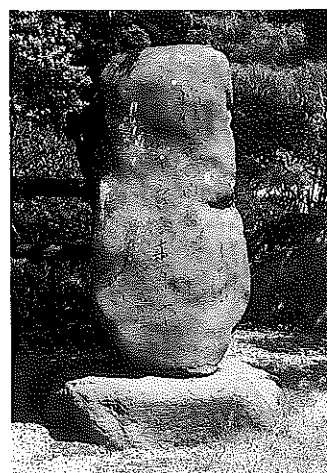
4-17 宝篋几塔



4-15 石灯笼



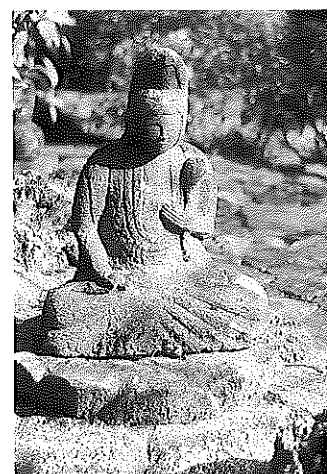
4-14 宝篋印塔



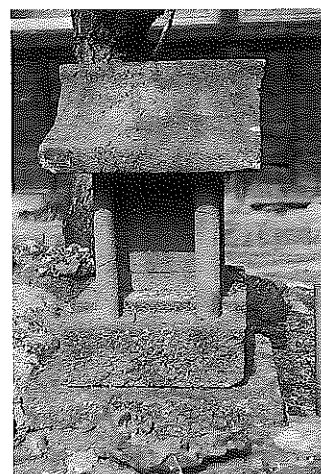
4-18 文学碑（句碑）



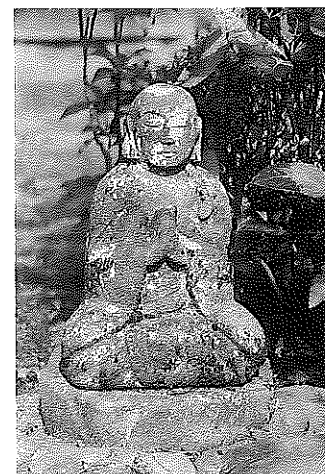
4-16 文学碑（句碑）



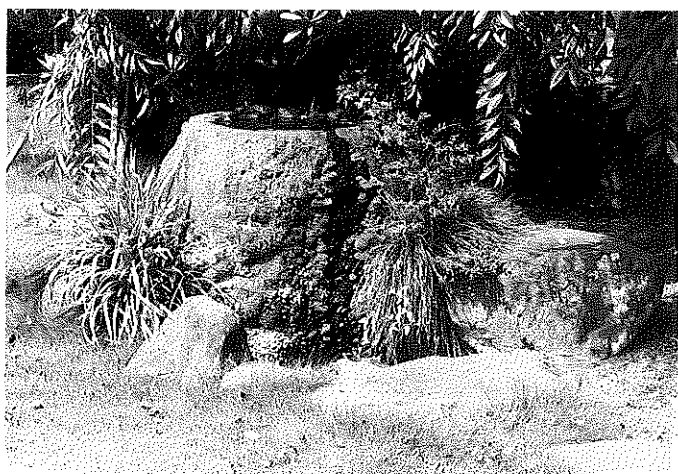
4-21 聖観音



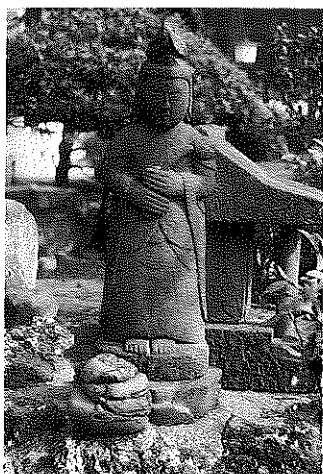
4-20 弁財天



4-19 地藏菩薩



4-24 手洗石



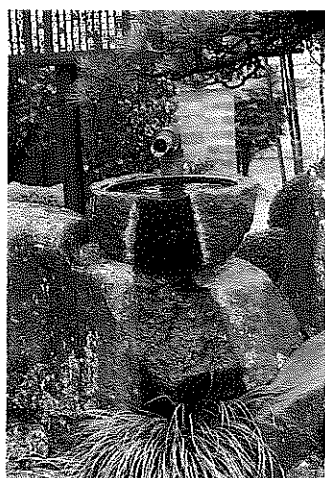
4-22 聖観音



4-25 文学碑（句碑）



4-23 如意輪観音



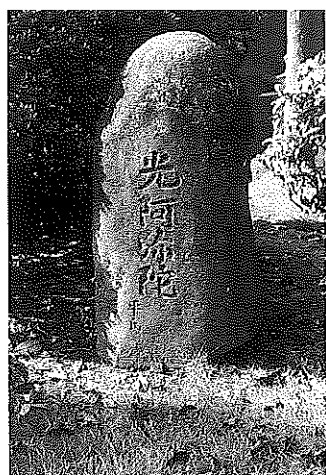
4-28 手洗石



4-27 石灯籠



4-26 碑（石段基石由来）



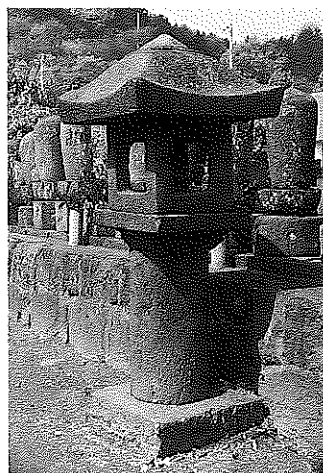
4—31 石造物（石塔）



4—30 大般若経供養塔



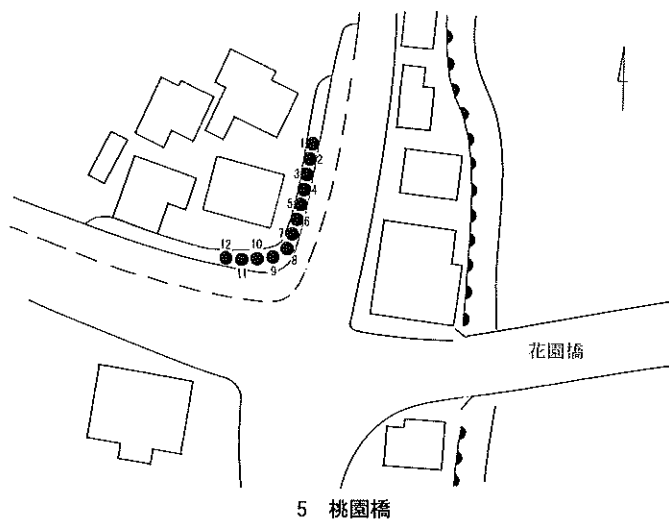
4—29 石造物（基石）



4—33 石灯籠



4—32 宝篋印塔



5-3 馬頭観音



5-2 馬頭観音



5-1 文学碑（句碑）



5-6 馬頭観音



5-5 馬頭観音



5-4 馬頭観音



5—9 馬頭觀音



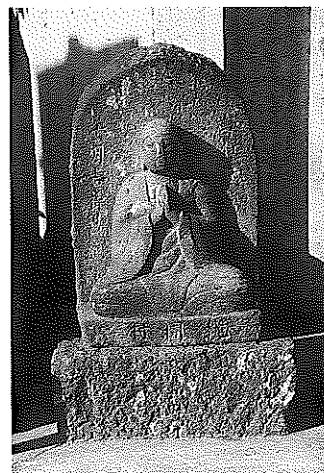
5—8 常夜塔（部分）



5—7 馬頭觀音



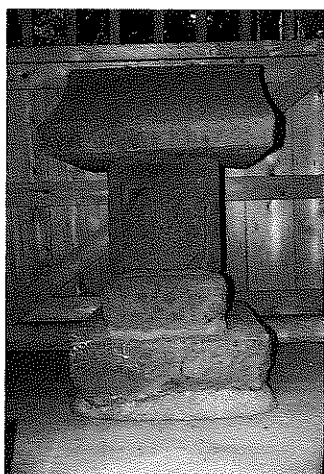
5—12 羅漢



5—11 道祖神



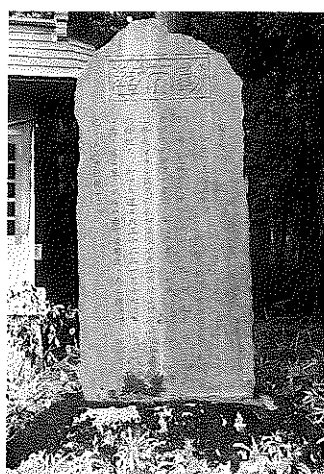
5—10 馬頭觀音



6—5 諸神（御嶽神）



6—4 山の神塔（石祠）



6—3 碑（山林松下記念碑）



7 碑（入会地記念碑）

桃園地区石造物一覧表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
1	碑 (富澤六堰改修記念)	板石	昭和59(一九八四)	210×174	別記1(100頁)
2	碑 (温情の灯)	自然石	平成4(一九九二)	200×300	別記2(101頁)
3-1	寺院標石	角柱	昭和42(一九六七)	328×70	(右柱正) 曹洞宗 宗祇翁墓前 (右柱背) 献納 富沢 渡辺勇 三十七世英山一雄代 千福普明天産書 (左柱正) 桃園山 定輪寺 (左柱背) 昭和四十二年五月吉祥日
3-2	碑 (桃園貞純親王塔)	自然石		154×130	(正) 桃園貞純親王塔
3-3	碑 (桃園貞純親王 古塔發見之記)	自然石	明治38(一九〇五)	211×144	別記3(101頁)
3-4	幟立		大正7(一九一八)	162×24	(右) 大正七年十月建之 桃園神社氏子中 (背) 石材寄附者 富澤 服部林藏 田口忠藏
3-5	神社標石	角柱		274×143	(正) 桃園神社
3-6	手洗石	自然石		59×79	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
3-7	石灯籠	灯籠	宝曆4(一七五四)	177×84	(正) 宝曆甲戌七月吉日 (火袋補修)
3-8	石灯籠	灯籠	宝曆6(一七五六)	157×80	(正) 奉造立畠中氏嗣 宝曆丙子夫 八月吉日 (竿下部埋没)
3-9	狛犬		昭和51(一九七六)	136×70	(正) 奉 (背) 昭和五十一年十月吉日 良邊衛建之
3-10	狛犬		昭和51(一九七六)	138×70	(正) 納 (背) 昭和五十一年十月吉日 良邊衛建之
3-11	結果石	自然石	寛政12(一八〇〇)	194×110	(正) 禁軍酒 (背) 寛政十二歳十一月吉日 施主 庚申講中 當山念六世至山叟
4-1	羅漢	丸彫座像		91×61	(背) 第一迦彌彌羅國中尊者
4-2	地藏菩薩	丸彫立像	貞享1(一六八四)	143×48	(台座正) 願 [] (台座右) 皆貞 [] 甲子 [] 林鐘 [] (台座左) 富沢 [] 渡邊 [] (台座下部欠落)
4-3	羅漢	丸彫座像		75×61	(背) [] 鉢 [] 多経講中 [] 羅 [] 多羅尊者 施主 [] 田 [] [] [] 右衛門
4-4	万壽塔	笠唐破風 角柱	元禄8(一六九五)	195×58	(正) ○ 三界萬靈等 (右) 重心道珍菴主 (左) 花庭妙圃大師 (背) 鐸禪代造立焉 元禄八乙亥歲臘月念三日 施主 渡邊勘兵衛

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
4-12	石灯籠	灯籠	寛政4 (一七九二)	174 × 98	別記7 (103頁)
4-11	碑 (重興碑)	板石	昭和6 (一九三一)	481 × 260	別記6 (101頁)
4-10	石灯籠	灯籠		222 × 55	(4-18参照)
4-9	石造物 (子持石)	自然石		212 × 333	(正) 子持石 子持石は寺領羅漢洞の対面に在り昔より子持石を礼拝しこれに 接する男女は子宝に恵ぐまれ安産疑なしと世の御夫婦この石寺の子持 石のあらたかな靈驗にあやかりなされ。 住持敬白
4-8	常夜塔	灯籠	寛延3 (一七五〇)	323 × 160	別記5 (101頁) (火袋補修)
4-7	常夜塔	灯籠	寛延2 (一七四九)	323 × 160	別記4 (101頁) (火袋補修)
4-6	石造物 (石垣)	自然石	延享5 (一七四八)	120 × 97	(正面右) 両土堤 施主 二本松村中 (正面左) 豈悦道成事 天然就此辰 延享五戊辰疊石定輪辰 (一対)
4-5	石段袖石	角柱	大正6 (一九一七)	45 × 19	(上段右) 泉村平松 施主服部榮治郎 (下段右) 大正六年一月吉岡 (上段左) 當山三十五世 中村埋一代 (下段左) 石工 三島町 小澤福太郎 (一部土中埋没・一対)

4 ┃ 21	4 ┃ 20	4 ┃ 19	4 ┃ 18	4 ┃ 17	4 ┃ 16	4 ┃ 15	4 ┃ 14	4 ┃ 13	番 号
聖 觀 音	弁 財 天	地 藏 菩 薩	文 字 碑 (句 碑)	宝 篋 印 塔	文 字 碑 (句 碑)	石 灯 籠	宝 篋 印 塔	文 字 碑 (句 碑)	種 類
丸 彫 座 像	祠	丸 彫 座 像	自 然 石		自 然 石	灯 籠		櫛 型 角 柱	形 状
	安 永 5 (一 七 七 六)		寛 政 12 (一 八 〇 〇)		昭 和 29 (一 九 五 四)				造 立 年
46 × 38	87 × 60	42 × 31	128 × 83	86 × 33	150 × 204	111 × 42	68 × 34	136 × 112	法 量 (cm)
	(背) 弁才天 宮一字 (右) 定輪現住 廬山代 新立焉 (左) 安永五丙申天 十月吉旦		(正) 燈籠の由来 安里気奈 木間可那 種玉庵 石眠立焉 (右) 寛政十二庚申年弥生廿八日 (左) 當寺廿三世 廬山叟事		別記9 (103頁)		(宗祇墓)	別記8 (103頁)	銘 文 (備 考)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
4-22	聖観音	丸彫立像		90×36	
4-23	如意輪観音	丸彫座像		57×41	
4-24	手洗石	自然石		88×125	
4-25	文学碑(句碑)	自然石	昭和62(一九八七)	171×272	別記10(104頁)
4-26	碑(石段基石由来)	角柱	昭和50(一九七五)	101×83	別記11(104頁) (4-29石造物参照)
4-27	石灯籠	灯籠	昭和49(一九七四)	155×75	(正) 献燈 (背) 添 桃園定輪寺 卅七世英山一雄 昭和四十九年七月二十日 (台座背) 吉川信勝氏
4-28	手洗石	鉢型		27×62	
4-29	石造物(基石)	山型角柱	正徳5(一七一五)	50×17	(右) 正徳五乙未年 五月吉日 悦山叟代 (左) 施主 納米里村 吉川文右衛門 (4-26碑文の本体・一対)
4-30	大般若経供養塔	板石	昭和56(一九八一)	295×411	別記12(104頁)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
4-31	石造物(石塔)	自然石	天文21(一五五二)	77×36	(正) 光阿弥陀 平氏 (右) 天文廿一壬子十二月二十日
4-32	宝篋印塔(変形)		康正2(一四五六)	99×56	(基礎) 開山 康正二丙子天 三月十九日
4-33	石灯籠	灯籠	宝暦2(一七五二)	151×64	(正) 供養燈 寶暦壬申天 四月二十七日
5-1	文字碑(句碑)	自然石		121×85	(正) 世 ^よ にふる盤 ^は さらに時雨 ^{しぐれ} の 屋 ^や とりか那 ^な 宗祇翁 右翁旧跡古墳是より二丁 定輪寺二あり
5-2	馬頭観音	舟型立像	嘉永5(一八五二)	79×54	(正) 嘉永五年 六月廿八日 (舟型一部欠落)
5-3	馬頭観音	舟型立像	享保17(一七三二)	92×39	(正) 享保十七壬子天 拾月十八日 施主太衛門 (台座正) 施主 伊兵衛 (舟型上部欠落)
5-4	馬頭観音	舟型立像	元文4(一七三九)	66×36	(正) 元文四己未天 九月十九日
5-5	馬頭観音	舟型立像		75×35	(舟型上部欠落)
5-6	馬頭観音	板石	昭和3(一九二八)	113×67	(正) 昭和三年七月 馬頭観音 良邊房吉建之 (下部欠落・線刻)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
5-7	馬頭観音	自然石	安政2(一八五五)	93×40	(正)馬頭観世音 (右)安政二卯年 (左)七月吉日 願主 菊石衛門
5-8	常夜塔(部分)	灯籠		72×40	(残存 竿部)
5-9	馬頭観音	舟型立像		81×48	(舟型上部欠落)
5-10	馬頭観音	舟型立像	天保15(一八四四)	99×68	(正)天保十五年 辰八月吉日 大石伊助 (舟型一部補修)
5-11	道祖神(単体)	舟型座像	享保6(一七二一)	81×60	(正)享保六丑季 十月吉祥日 桃園村
5-12	羅漢	丸彫座像		121×106	(背)源道 施主 禪明坐元
6-1	鳥居(部分)			10×46	(亀服一対)
6-2	碑(御嶽神社縁起)	板石	平成5(一九九三)	140×112	別記13(105頁)
6-3	碑(山林松下記念碑)	板石	大正13(一九二四)	165×126	別記14(105頁)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
614	山の神塔(石祠)	祠		65×47	(刻字読不可能)
615	諸神(御嶽神)	祠	宝曆6(二七五六)	95×58	(左)奉造立 宝曆六丙子歳 九月吉日
7	碑(入会地記念碑)	板石	大正10(一九二一)	235×110	別記15(106頁)

別記1 碑(富澤穴堰改修記念)

(正) 富澤穴堰改修記念碑 当穴堰は、寛文十一年定輪寺村一町三反・富澤村四町一反・南一色村一反六畝の灌漑用及び生活用水として、隧道部四百六十二米、開溝部三百二米にわたり黄瀬川沿いに掘削された。その後、年々歳々流入土砂礫に悩まされ、その排除や取入口堰の補修を繰り返し、昭和六年隧道内の一部修理等を行った。近年度重なる洪水等のため、隧道内一部陥没、道床の高低差激しく通水不能等の障害が生じたので、市に要請し、当局並びに防衛施設庁の御理解を得、昭和五十四年より同五十八年の五か年継続事業として全面改修することとなった。近代的技術を駆使して、隧道内高低差の解消とこれに付随する掘削補強工事、隧道内の土砂排出水門、取入口の設備工事等を施工した。総工費二億二千七百万円、うち一億七千五百三十万円の

(背) 雁風 勝又盛一書

昭和五十九年四月吉日 工事発注者 裾野市長市川武同施工者 住友建設株式会社
記念碑建立 富澤区 桃園区

は、防衛施設庁よりの東富士演習場周辺障害防止対策事業費として補助を受け、不足分五千七百七十万円は市費をもつて賄われた。取入口堰は近代化され、隧道入口水門と転倒式水門は理想的な設備工事による遠隔操作の連動で、自動、省力化を実現した。ここに隧道延長七百十二米、開溝部百米の全改修工事の完成をみるに至った。本工事の完成に当り、三百十余年にわたる住民の苦難に思いをはせると共に、市ほか関係各位の御理解と熱意に一同深甚なる謝意を表わし、記念碑を建立する。

別記2 碑(温情の灯)

(正) 温情の灯

(背) 温情の灯

温情の灯 大正九年岩下清周氏によりこの地に温情舎小学校が創立されました。信仰心のある善き女性の育成を願って播かれた種は昭和二十七年聖心女子学院に受け継がれ育まれてきました。昭和三十三年不二聖心女子学院の校舎が山上の茶畑に移転され今日に至りました。草創の昔を偲びここに碑を建て聖心の灯が永遠に輝くことを祈ります。 不二聖心女子学院
ドウシエーン会 一九九二年五月 題字 村上巖

別記3 碑(桃園貞純親王古塔發見之記)

(正) 桃園貞純親王古塔發見之記

桃園貞純親王古塔發見之記 明治三十七年十月余初巡視農園距御嶽神社二町得一大石于竹林中拔地五寸則令人發掘隱々有文得桃園貞純親王塔七字或曰此石元在神社境内或曰昔時有計埋塔者今不知其何故然至塔之爲神社域中之物復實不可爭也則更移之于茲云
明治三十八年四月 鈴木藤三郎誌

別記4 常夜塔

(正) 常夜燈

(左) 常燈常明

常燈常明 功德無邊 志主柏氏 善根無盡 長傳萬也
上報四恩 下資王有 謂常義則 不變不易 一統晝夜
謂燈義則 破無明暗 開法性智 謂明義則 光透有頂
影徹黃泉 于此有義 燈庭際則 大風之日 大雨之時

別記5 常夜塔

(正) 常夜燈

(右) □氏之日

(背) 常夜燈

燃於庭際 餘立影堂 公諾平否 海墨難尽 燃炷之儀
興栢氏同 孟正文月 傍生異類 等流利益 予日善哉
燈明功德 所謂圓向 七世先亡 子孫後靈 乃至法界
于先栢氏 立常夜燈 吉氏亦喜 乞爲造立
是也夢日 視善進善 大經所謂 五十展轉 隨喜功德
長歷萬劫 如椗金剛 其功豐盡 高顯卓尔 同栢氏則
菩提亦齊 永作境致 見者益信 幸哉幸也 依而示于
後者鑑之 寬延三歲在庚午 仲冬吉且 定輪現悅道識
(左) 駿河國駿東郡納米里村 施主 吉川文右衛門

別記6 碑(重興碑)

(正) 重興碑

重興碑 静岡縣駿東郡富岡村桃菌山定輪寺重興記
米山梅吉題額 法運ノ通塞ハ執政ノ良否ニ關スルモノ
多ク寺刹ノ興廢ハ住持ノ適不ニ因ルコト少カラズ今ヤ
佛日再ビ輝キテ桃菌ノ花ニ咲ヒ祖風復タ起リテ定輪ノ

鐘ヲ鳴ス豈其因由ナカルベケンヤ古記ヲ案ズルニ桓武天皇延暦年間弘法大師此寺ヲ開創シ醍醐天皇ノ御宇ニ至リテ清和天皇第二ノ皇子貞純親王斯道ヲ欽仰シ給ヒ延喜十二年壬申ヲ以テ桃園山定輪寺ト改稱シ道本阿闍梨ニ命ジテ主法タラシム爾後五百十餘年三密加持ノ道場トシテ化益普ク駿東ノ地ニ及ベリ然ルニ後花園天皇永享二年庚戌寺主觀之法印指ヲ禪鼎ニ染メ宗旨ヲ改易シ春屋宗能禪師ヲ請シテ開山第一世トナス是ニ於テ曹洞ノ玄風大ニ振ヒ衲僧ノ藪淵トナルニ至レリソレヨリ春秋六十一回ニシテ後主御門天皇延徳二年庚戌九月宗祇法師來リテ草庵ヲ結ビ自然軒ト號シテ此ニ留リ後種玉菴ト改メタリ斯クシテ弘法大師播帥己來今ニ至ルマデ實ニ一千一百有餘載ヲ經タ理禪林ノ規矩既ニ成リ法鼓一タビ定輪ニ轟クヤ武門ノ之ニ歸依スル者多ク今川武田二氏先ツ寺田ヲ寄進シ後陽成天皇慶長七年壬寅ニハ徳川家康亦寺領五石並ニ寺中山林免許ノ朱印ヲ與ヘ累代ノ將軍外護淺カラズシテ寺祿田畑山林壹百四拾町歩ヲ領有シ以テ寺門ノ隆昌ヲ致セリ然ルニ明治ノ革新ニ際シ寺有山林ハ悉ク官有ニ歸シ其内七拾町歩ハ小山某ニ特賣セラレタレバ寺域ノ外皆他人ノ有トナリ窮乏ノ極屋破レ壁傾キニ武毀佛ノ慘狀ヲ想見セシムルモノアリ當時ノ俗謡ニ云ク有難イ哉定輪寺寢テキテ星ヲ仰キ見ルト榮廢ノ狀以テ知ルベキナリ爾來春風秋雨空シク法門ノ哀頽ヲ哀ムコト茲二年アリ前住澤田禪猛和尚ニ及ンデ山林拂下ノ出願ヲナシタルモ其目的ヲ達スル

能ハズシテ止ミヌ明治四十年丁未現住中村理一和尚ノ入山スルヤ一意山門ノ興復ヲ計リ自ラ私財ヲ擲テ幾度カ山林拂下ノ出願ヲナスト雖モ其効遂ニ空シカリシカ大正九年三月十二日ヲ以テ檀徒總代米山藤三郎水口仙三渡邊惠作水口善三渡邊道次郎渡邊孫三郎等ノ贊助ヲ得テ上京シ且ツ在享檀徒米山梅吉ノ後援ニテ宮内大臣波多野敬恒ニ上書シ世傳御料林解除並ニ山林ノ拂下ヲ乞ヘリ其後追願ノタメ御料局ヲ訪フコト三十七回百折千挫ト雖モ其志ヲ翻サズ寢食ヲ忘レ死力ヲ盡シテ事ニ從フ其ノ間ノ苦心慘澹筆紙ノ及ブ所ニ非ズ遂ニ大正十二年癸亥一月十七日ヲ以テ上地御料林七拾五町歩ノ立木土地拂下ノ許可ヲ得直ニ檀徒總代等ト資金ヲ調達シテ多年ノ宿望ヲ遂グルヲ得タリ尋テ服部清藏服部房太郎渡邊啓次郎高寄慶次郎等ノ協力ニヨリ五周ノ星霜ニ亘リテ全山二十七萬五千本ノ植林ヲ完成シ又伽藍ヲ修築シ規繩ヲ整備シテ春屋禪師ノ古ニ復スルノミニアラス米山藤三郎外檀徒ノ後援ヲ得テ常恒會地ニ寺格ヲ昇進シテ大ニ玄宗ヲ煇揚ス管長石川素童禪師コレヲ聞テ特ニ賞狀ヲ附與シ本寺海藏寺主ハ和尚ヲ以テ當山中興ノ位ニ禪ス予幸ニ春屋禪師ノ法系ヲ受ケ祖風ノ振興スルヲ見テ隨喜ニ堪ヘズ乃チ之ガ記ヲ為ル

昭和六年一月十七日 駒澤大學長文學博士

忽滑谷快天識 菱洲居士川島修夫書

(背)
昭和六年七月二十日當山三十五世法幢開關中興中村理一代建

山林拂下當時ノ檀徒總代並世話人 檀徒總代
 米山藤三郎 渡邊惠作 渡邊道次郎 水口仙三
 水口善三 渡邊孫三郎 世話人 服部清藏
 服部房太郎 渡邊啓次郎 服部田逸 渡邊五十治
 吉川敏夫 秋山質二 水口善八 服部榮治郎
 中西關太郎 富岡國太郎 柏木正枝 柏木慎次郎
 高崎慶次郎 杉山治三郎 前田徳次郎 堀川繁藏
 前田淺藏 市野直次郎 杉山伊太郎 石工 山下政衛
 杉山福藏

別記7 石灯籠

(正) 宗祇翁廟前 寛政四載壬子七月二十九日

値三百遠忌辰日建焉 二十六世當現住 至山代

(右) 無し能聲 其茶一把 志者しま天

二十三世 前主 石眠

(背) 三百登世 ふ里し文見る 月を可し

嵐雪四世六花菴 官風

(左) 稻能花 乏から佐留 か保り奈里 富澤 渡邊虎杖

盆の月 香乃煙耳 やと利計李 茶畑 柏木官里

別記8 文学碑(句碑)

(正) 月能秋 花の春多川 且可那 宗祇

(背) 種玉菴宗祇法師ハそ能かみ文龜二年七月卅日にをハリ
 給ひて今時享和改元酉年迄凡三百年に成尔介り然に
 古墳青苔尔埋林藪深隠して多の年月知人奈し茲江戸淺

艸之住壽輔能すゝめによりて連哥の好子をか多らひ祇
 公遠忌為追悼再松樹をうへんとて三寫宿に志流へを求
 て今此古墳を尋得多り古多り能星霜すたれ多るをおこ
 し侍ルことハりをいさゝ可古に志流しをくことに奈
 ん有介流

(台座右) 三嶋 川口平右衛門久忠 小出半兵衛英信

横山玄與穩通 世古六太夫利恭 三枝權左衛門當恒

(台座正) 江戸 水谷寂跡利寛 土田友己延年

粕谷小藤治庸行 渋谷助五郎利郷 青山平左衛門均

吉田太郎次文魚 小嶋長三郎政賀 土井頼母壽輔

(台座左) 光明寺 揚山 石工 信州高遠 北原孫八

(台座背) 當寺二十六世 至山叟

別記9 文学碑(句碑)

(正) 那へ天世の 風をおさ免よ 神乃春 宗祇

宗祇法師四百五十年祭記念碑

(背) 句碑建立之記 連歌ヲ以テ天下第一ト称セラレタル宗

祇法師ハ紀州有田郡藤並ニ生レ生來和歌ヲ好ミ連歌ニ

精進シテ遂ニ名ヲ成シ多クノ著書ヲ世ニ殘セリ 特ニ

新撰菟玖波集ハ後土御門天皇ノ勅撰ニ準セラレ花ノ下

宗匠ノ称号ヲ許サルル榮譽ヲ賜リタリ 又法師ハ戰亂

ノ世ヲ諸國ノ領主豪族等ニ連歌古典文学ノ事ヲ解キツ

ツ東西ヲ遍歴シテ定居ナク只一筋ニ此ノ道ヲ生キ通シ

タルモ齡八十二才ノ時越後路ヨリ病メル体ヲ推シテ關

東ヲ廻リ最後ノ望ヲ秀峰富士ニカケテ箱根湯本ニ至リ

タルニ不幸ソノ地ニ客死セリ 高弟宗長等師ノ志ニ應ヘ亡骸ヲ生ケル人ノ如ク興ニテ足柄山ヲ越エ此ノ地桃園定輪寺ニ伴ヒ門前ノ少シ引入リタル景色佳キ所ヲ選ヒテ此処ニ葬リタリ 時ニ文龜二年八月三日ノ曙ナリト 宗長ノ記セル宗祇終焉記ニ明カナリ今ヤ星霜四百五十年ヲ経テ其ノ墳墓ハ地ニ埋レントス 茲ニ地元ノ有志相集ヒ宗祇法師遺跡保存會ヲ結成シテ四百五十年祭ヲ舉行シ此ノ碑ヲ廟前ニ献ケテソノ遺業ヲ後世ニ傳ヘントス 昭和廿九年十月三日 宗祇法師遺跡保存會建之 會長 定輪寺世七世中村一雄

世話人 岩崎龜 橋本武光 富岡雪下江 渡辺慎一
渡辺嘉一 渡辺義夫 渡辺文武 渡辺武治 柏木正枝
中西嘉一 歌崎春男 松井謙一 藤原重治
藤田千代木 小林秀也 小林伊那子 遠藤佐市郎
江森松濤 佐野長作 御宿秀實 清水胤夫 杉山幸一
杉山幸作 鈴木満 長岡天産書
石工 三島 川口精石 佐野 杉山福藏

別記10 文学碑（句碑）

（正）交友と いふこと 雲と 秋草と 一透 ㊦
（背）勝又一透先生は明治四十年八月四日裾野市深良に生誕こよなく富士を愛され先生の傘寿を祝し昭和六十二年十一月三日建立 岬門下一同 裾野市文化協会

別記11 碑（石段基石由来）

（正）献華

（左）供養塔左右ノ石柱ハ当山旧参道山門旧位置前石段ノ基石ニシテ正徳五年 二十世悦山禅啓代ニ納米里村吉川文右エ門ノ寄進ニヨリ築造サレシモノナリ
昭和四十年山門移転ニヨリ取壊サル
三十八世 莞山雄爾識

（背）虔備 昭和五十年六月八日 定輪寺三十八世莞山雄爾
（台座背）吉川信勝氏

別記12 大般若經供養塔

（正）大般若經供養塔 昭和五十六辛酉年七月二十日建立
寄進 文右エ門子孫 吉川信勝 長泉町納米里一四九番地ノ二

（背）寛延三年吉川文右エ門常夜燈一基ヲ寄付シ又同年大般若經六百卷ヲ寄進ス爾來歷代ノ住持ハ毎年法要ヲ修行シ施主吉川家ノ本命元辰山門繁榮相信安穩ヲ祈禱シ来リテ今日ニ及ブ 宝曆六年六月納米里村名主吉川七郎右門ハ隨法完喜居士ノ遺言ニ依リ下長建字窪田ノ上田四反七畝十八歩ヲ寄進シ更ニ同年十一月先祖ノ精魂菩提ノ為メ米二十五俵ヲ寄付シタルニ付当山廿二世大清沢悟大和尚ハ特ニ吉川家ノ永代日牌ヲ設ケ且ツ毎日茶湯仏餉念誦回向等永ク怠慢有ル可カラサル事ノ覚書ヲ下付シタリ是等吉川家往年ノ功績ヲ稱エ大正二年五月廿五世即応理一大和尚ハ先代吉川喜三郎ニ永代居士号

ノ免統ヲ授与シタリ

昭和廿七年九月 定輪寺廿七世 英山一雄識

吉川信勝氏先祖代々ノ淨業ヲ繼承シ当山三十七世英山一雄大和尚ニ深ク帰依セラレ能ク寺門護持ニ勤メタリ永年大般若經供養塔建立ヲ念願トシ私財ヲ投ジテ遠ク四国ノ地ヨリ銘石ヲ求メ此度宿願成就供養塔完工ヲミタリ洵ニ奇特ノ至リニ堪エズ

定輪寺廿八世 梵山雄爾識 天產書

(台座背) 施主 長泉町納米里一四九番地ノ二 吉川信勝

工事人 裾野市茶畑一三六番地 土木 高田衛

別記13 碑 (御嶽神社縁起)

(正) 御嶽神社縁起 祭神 大國主ノ神 開運繁榮ノ神

少名彦ノ神 葉種健康ノ神 鎮座由来 宝曆六年九月

(一七五六) 今ヲ去ル二三年前桃園天皇ノ御代元定

輪寺領御嶽森(現桃園樺坂一九八番地不二聖心地先)

二定輪寺先代住職ガ愛鷹山麓ノ安泰ト村人ノ無病息災

五穀豐穰ヲ祈願シ木曾ノ本宮御嶽神社ヨリ分神鎮座セ

シモノデ後ノ世大正ノ中頃岩下清周氏ガ樺坂一九八番

地ノ不二農園ヲ經營スルニ当リ信仰ノ違イノ爲村人ノ

七軒衆ニ移転守護ヲ委ネ現在ノ尾畑山共有地内ニ御遷

宮サレタモノ 神殿雨覆新築改装工事 平成五年八月

末着工・十月二十八日落慶式典挙行 斎主 桃菌神社

宮司伊藤政秋 寄進者及ビ工事請負者芳名

奉替者芳名 東名觀光開發株式会社木村襄司

別記14 碑 (山林払下記念碑)

(正) 勤而整 尾畑山林 拾五町五段畝歩 静岡縣駿東郡富

岡村桃園 杉山彌太郎 高崎慶治郎 大石季吉

良部房吉 歌崎松藏 歌崎清吉 桃井丑藏

右山林ハ元帝室御料地ナリシニ前記七名ハ生業ノ資ト

シテ之ガ拂下ヲ請願ス官民ノ同情期セスシテ鍾リ代議

士岩崎勲氏熱心奔走セラル駿東郡長古澤俊次氏静岡縣

山林課長堀田森藏氏亦斡旋スル所アリ遂ニ大正十二年

一月十七日ヲ以テ許可セラル其ノ茲ニ至リタルハ岩下

清周氏ノ力ニ俟ツモノ特ニ大ナリ記シテ以テ後昆ニ傳

フ

(背) 大正十三年一月二十日 同情者 富岡村長湯山榮男

全村千福横山健吾 全西島親則 小泉村富澤渡邊波司

定輪寺中村雄爾 中川組中川豊彦 歌崎幸三 中西基

桃井秀光 市川銀作 歌崎三郎 鈴木勝雄

金時堂須賀葉局須賀正道 大石利夫 桃園区

協賛者芳名 桃園団地一同 桃園老人会一同

歌崎正美 前田岳男 足立哲子 高島幸子 歌崎勉

桃井製作所 中西秀一 五十嵐信太 小幡敬馬

田辺俊雄 奥村組奥村貢 渡邊石材渡邊敏夫

工事請負者 橘建築橋良男 基礎境内地整備水口勝弘

屋根板金溝口健次 神社名彫刻横山久人

共有地権者七名 歌崎春男 桃井昭三 杉山昭治

歌崎久作 高崎泰男 大石和巳 良邊衛

全渡邊直作 沼津市櫻井十三 石工山下政衛

別記15 碑（入会地記念碑）

（正）勤而致 内野山志 内埜山入會地廣袤約九十町原爲駿
東郡富澤水窪上土狩三村之所有明治維新之後有官民審
其所領地域之令内野山會被編入于官有地三邨人民以爲
死活之所岐徵古記訊舊慣討鄰保汎索證馮而上書切請使
其利權如前官遂許之再歸三村之有實明治十四年五月也
涉歲閏月村民衆開拓之大正八年三月三自治區之閒定每
戸分擔治山之法以完成百年之計矣今茲區民相圖書其事
于石以爲記 大正十年首春

裾野の石造物点描

桃園「文学碑（句碑）」（4—13）

本資料は中世を代表する連歌師飯尾宗祇の三〇〇年遠忌を記念する碑である。文亀二年（一五〇二）七月三日、宗祇は旅の途次、湯本（神奈川県足柄下郡箱根町）で没している。しかしその亡骸は定輪寺（裾野市桃園）に運ばれここに葬られた。墓塔（本巻 資料番号 桃園の四—一四）は当初本堂裏手にある東名高速道の橋脚付近に造立されたものと推定されている。本資料もその傍らに造られた。しかし昭和四十二年（一九六七）に移転整備がなされ、現在とともに本堂右前方に据えられている（写真参照）。

本資料は『裾野市史』第三巻 資料編近世（一九九六）、にも所収され（資料番号二四五）、若干の解説も付した（九五九頁）。しかし同巻に未収の資料で、造立の経緯について参考となる記載が「駿河志料」定輪寺の項にあるので紹介したい。

藤泰が記に、享和二年壬戌七月、宗祇法師三百回忌に、土井頼母壽輔御連歌執筆 当寺に詣り墳墓の所在を問ふに、寺僧の教へし所に至り見るに、終焉の記に誌せしに違ひければ、心竊に疑へど、そが儘に拝し、三嶋駅に立もどらんと、途中へ出、一農家に入て茶を乞ふに、老夫あり、何れへ越さるゝやとありければ、有し事ども実を答へければ、老夫の云へるは、寺僧の示せしは埋葬の地にあらず、実は仏殿の裏二三町許入て宗祇洞と字する地

あり、其所に小き石塔婆あり、是埋葬の地なり、老夫が幼き頃までは有しが、今猶ありや知らず、今僧の示は、宗祇洞は遠く、香華を供するに不便なりとて、近世寺辺に建たるなり、彼古墳の有無は知ざれど、老夫郷導せん、再び到赴き給はんや、と有ければ、伴ひて彼所に到り見るに、宗長の記する所と、地方違ふことなし、塔婆は跌石のみ存して、其他は爰彼所に散在せしを拾ひ集め、豊み見るに、一つも不失、一堆の五輪となれりと云



右 宗祇墓塔 左 本資料（文学碑）

内容の真偽については慎重な検討が必要である。しかしここに名
の見える土井寿輔が、本資料造立にあたり中心的役割を果たしたと
碑文にも刻まれており、留意したい。

なお、同じ三〇〇年遠忌の資料として、地元の文人である渡邊虎
杖・柏木官里等が奉納した「石灯籠」(本巻 資料番号 桃園の四―
一二、前掲『裾野市史』資料番号二四三)がある。ただし本資料が
享和元年(一八〇一)と刻されているのに対し、寛政四年(一七九
二)とあり、造立時期に差異がある。また文献資料としては同年の
「手向吟」(同 資料番号二四二)が挙げられる。その表紙には「渡
邊虎杖」と記されており、前掲「石灯籠」と対をなす史料である。

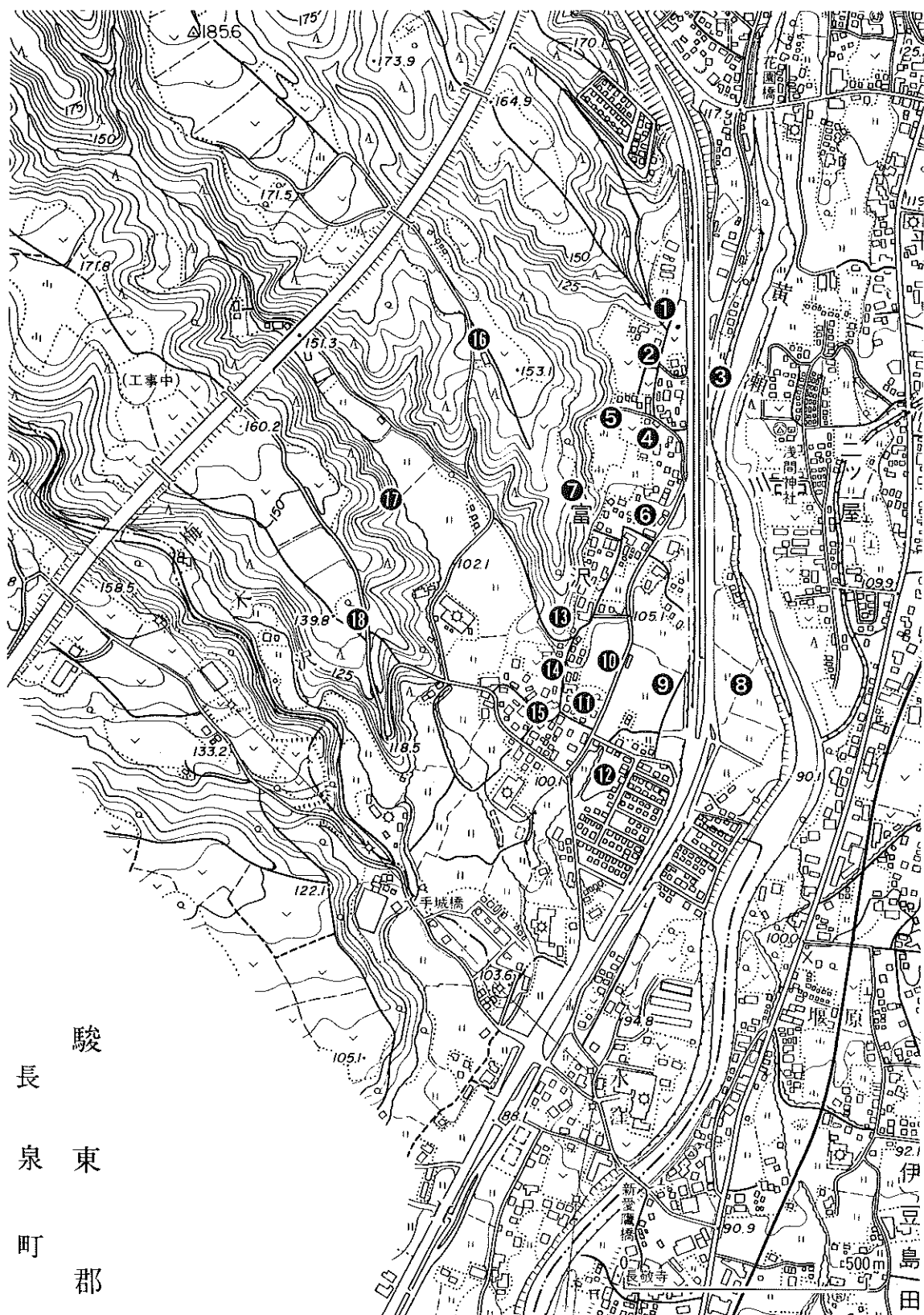
定輪寺をめぐる宗祇への思慕と催事による祈念は、その後も近隣
の人々を中心として継承されていった。その主たる事跡を辿れば、
同寺本堂内に明治三十五年(一九〇二)に奉納された四〇〇年遠忌
の句額がある。また昭和二十九年(一九五四)十月十七日には、四
五〇年遠忌の句額が奉納された。同年に造立されたと推定される同
遠忌の「文学碑(句碑)」(本巻 桃園の四―一六)も境内にある。
また同年には、地元の有志が呼び掛け宗祇法師遺跡保存会も発足し
ている。

その他に、年未詳であるが「世にふるは さらに時雨のやとりか
な」という詠草とともに、「右翁(宗祇) 旧跡古墳是より二丁 定輪
寺二あり」と記された「文学碑(句碑)」(同五―一)が、花園橋を
渡り終えた定輪寺の入口付近に立っている。

宗祇への敬慕は今日に受け継がれ、それは同時にこの地域の文化
活動の一つの中心を形づくる役割を果たしている。

(伊東誠司)

富 沢 地 区



駿東郡
長泉町

富沢地区



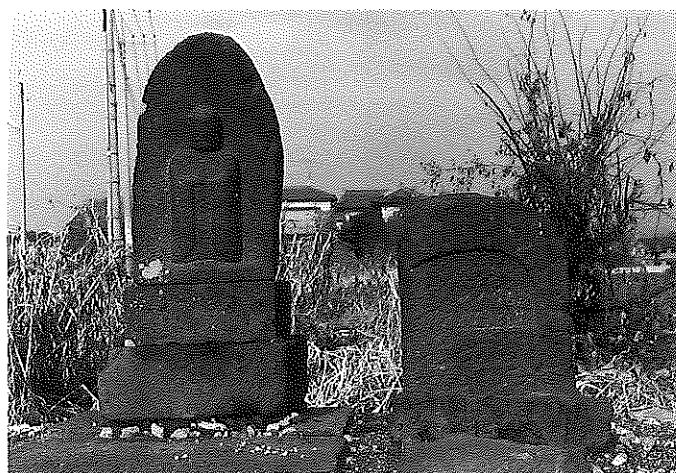
4 馬頭観音



2 聖観音



5 供養塔



3 二平橋・北



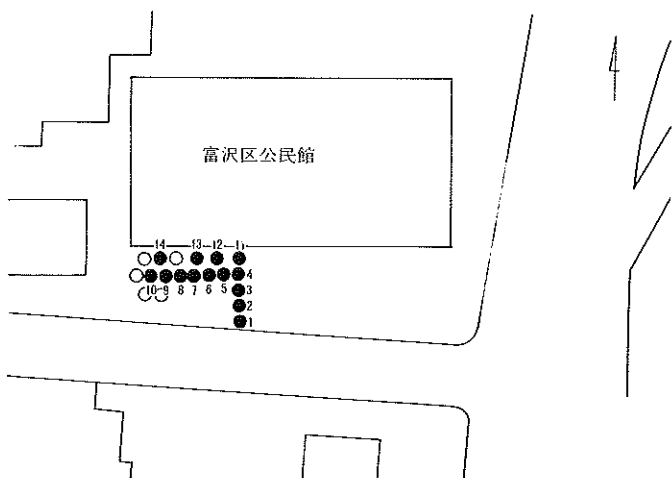
3-2 道祖神



3-1 石造物（不明）



6—1 聖観音



6 富沢公民館



6—4 順礼供養塔（横堂）



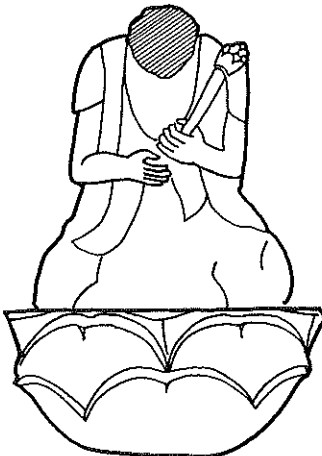
6—3 地藏菩薩



6—2 聖観音



6—8 如意輪観音



6—7 聖観音



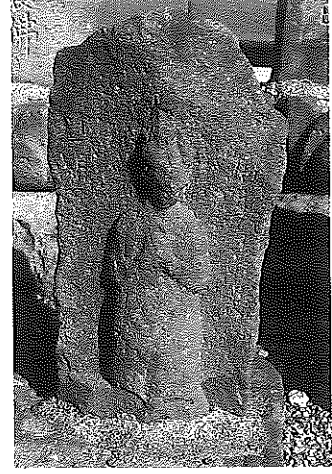
6—5 馬頭観音



6-12 馬頭観音



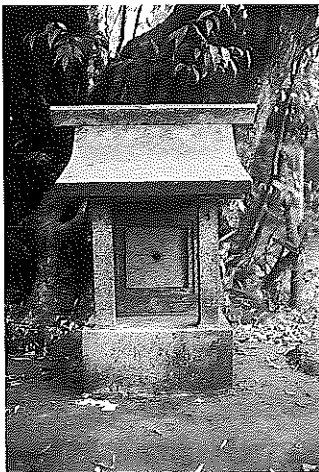
6-11 庚申塔



6-9 馬頭観音



7 富沢山の神



7-3 山の神塔（石祠）



7-2 石灯籠



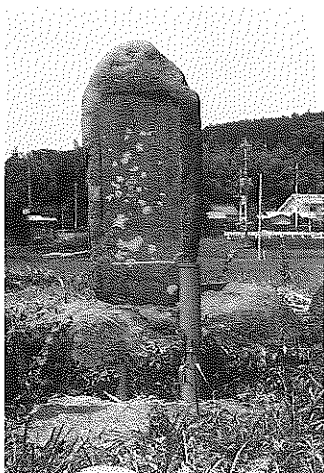
7-1 石灯籠



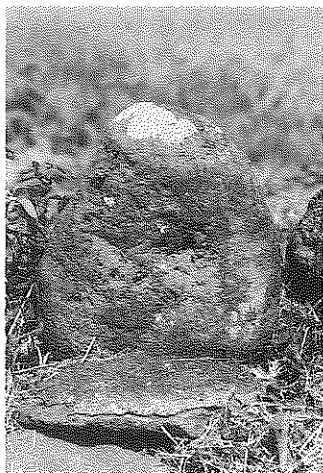
9 富沢庚申塚



8 諸神（稲荷塚祠）



9-4 馬頭・順礼供養塔（西）



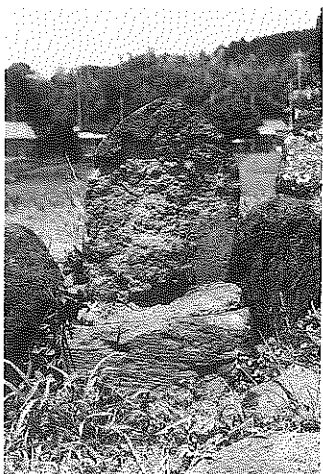
9-2 道祖神



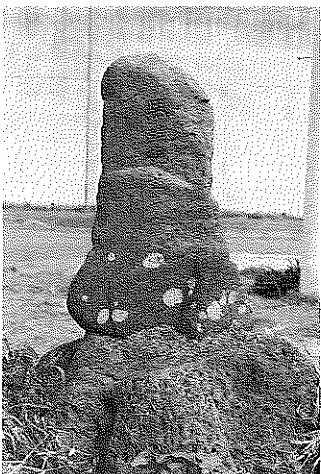
9-1 馬頭観音



9-7 順礼供養塔（西・坂・秩）



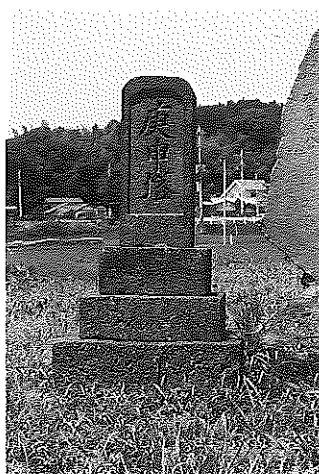
9-6 石造物（不明）



9-5 馬頭観音



9-10 唯念名号塔



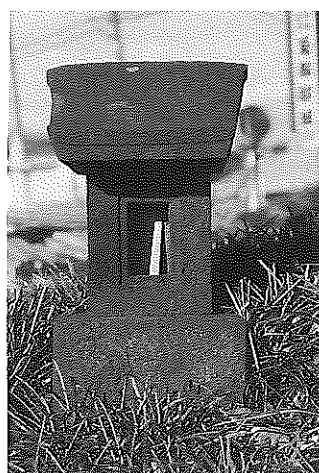
9-9 庚申塔



9-8 順礼供養塔
(西・坂・秩・横・駿・新四)



12 無縁供養塔



10 諸神 (神明)



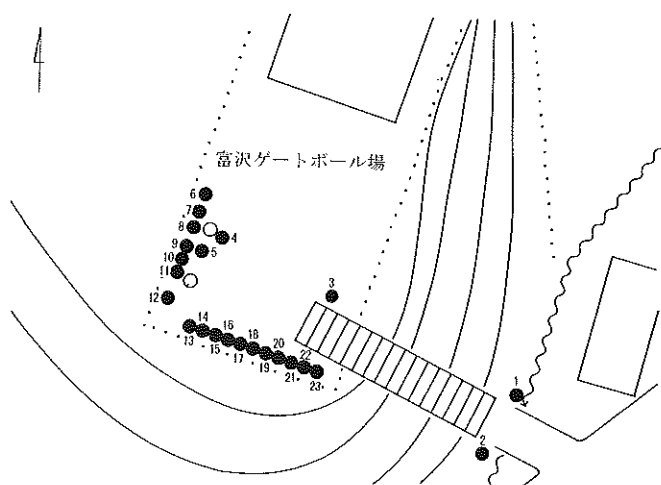
9-11 観世音菩薩



11-2 道 標



11-1 道 標



13 富沢尼寺跡



13-3 手洗石



13-2 馬頭観世



13-1 馬頭観世



13-6 順礼供養塔 (西・秩・坂)



13-4 如意輪観世



13—10 庚申塔



13—9 万靈塔



13—7 順礼供養塔（西）



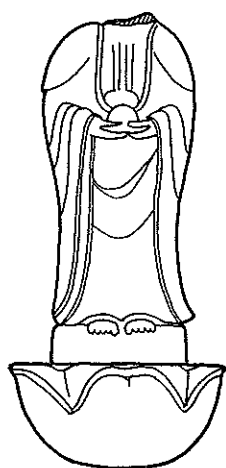
13—13 順礼供養塔（横）



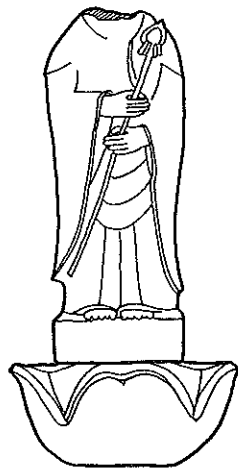
13—12 順礼供養塔
（西・坂・秩・横）



13—11 順礼供養塔（横堂）



13—16 地藏菩薩（六地藏）



13—15 地藏菩薩（六地藏）



13—14 観音菩薩



13-18 聖観音



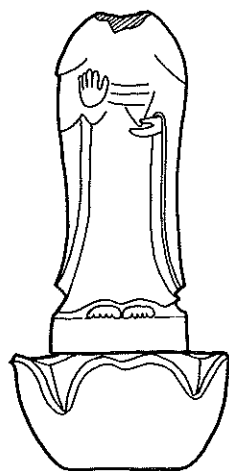
13 富沢尼寺跡



13-22 地蔵菩薩（六地藏）



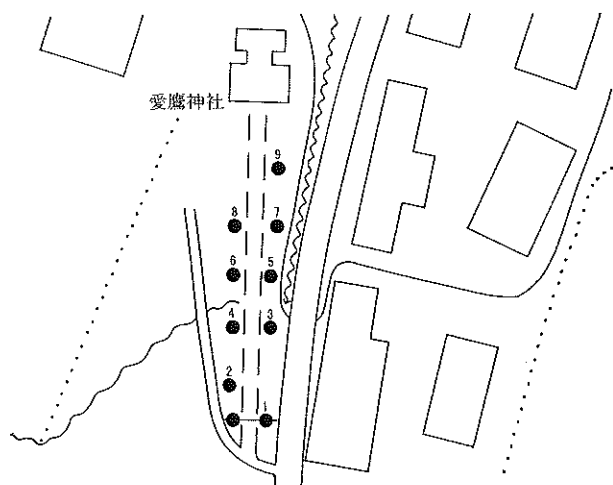
13-21 地蔵菩薩（六地藏）



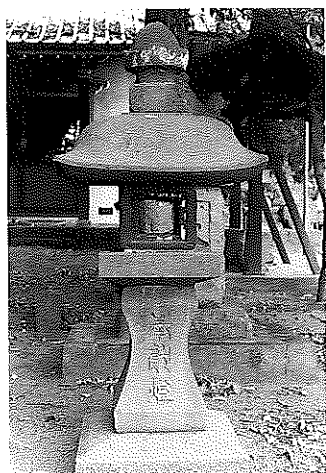
13-20 地蔵菩薩（六地藏）



13-23 地蔵菩薩（六地藏）



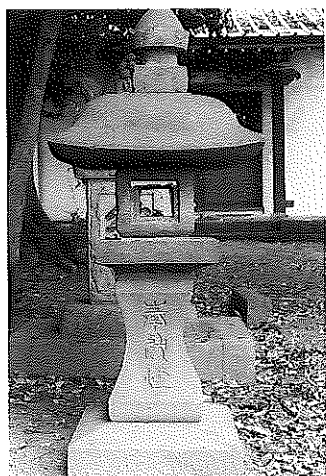
14 富沢愛鷹神社



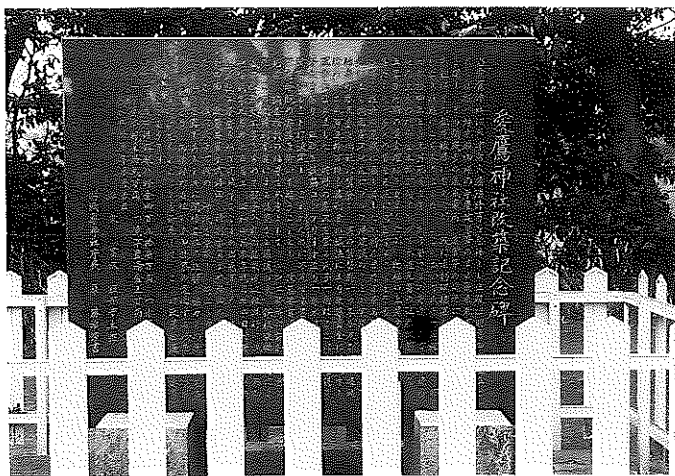
14-3 石灯籠



14-1 鳥居



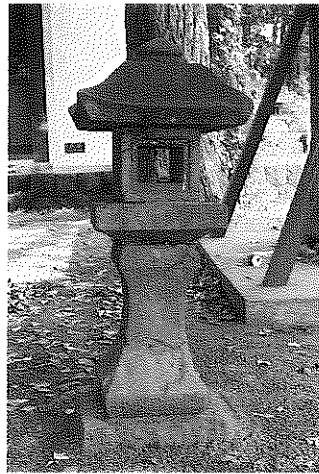
14-4 石灯籠



14-2 碑（愛鷹神社改築記念碑）



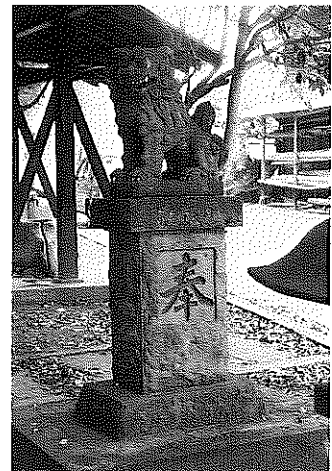
14-6 石灯籠



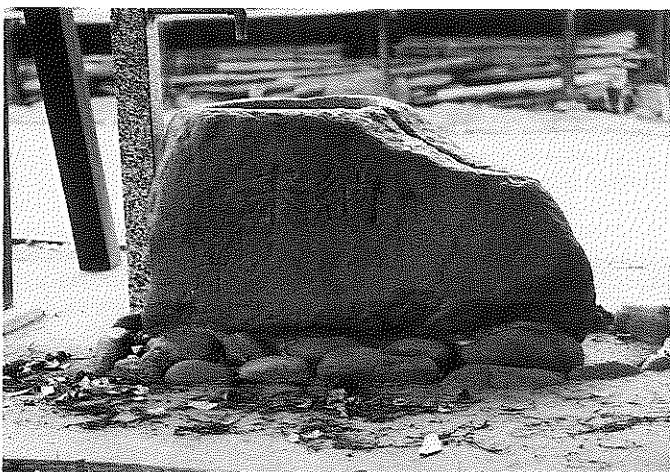
14-5 石灯籠



14-8 狛 犬



14-7 狛 犬



14-9 手洗石



16 馬頭観音



15-2 道祖神



15-1 道祖神



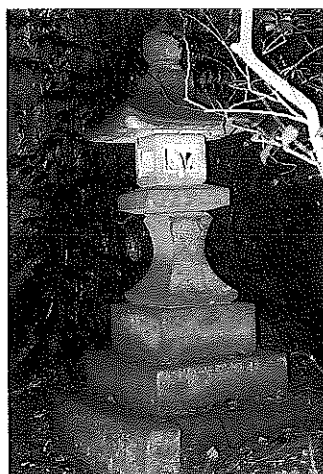
17-2 石灯籠



17-1 石灯籠



18-3 石灯籠



18-2 石灯籠

富沢地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
1	鳥居(部分)			25 × 34		(亀服一對)
2	聖觀音	丸彫立像		35 × 13		(一部欠落)
3-1	石造物(不明)	櫛型		55 × 40		
3-2	道祖神(単体)	舟型立像	元禄3(一六九〇)	83 × 42	(正) 〇 元禄三庚午年三月日 富沢邑	
4	馬頭觀音	自然石	嘉永2(一八四九)	99 × 43	(正) 南無馬頭觀世音菩薩 嘉永二酉年 三月十七日 當村施主 渡邊常石衛門	(中央部補修)
5	供養塔	自然石		123 × 114		
6-1	聖觀音	舟型立像		82 × 44	(正) 明戒禪尼當室開祖也 校倉淺右衛門敬白 五代之先□	(舟型上部欠損)
6-2	聖觀音	舟型立像		69 × 40		
6-3	地藏菩薩	舟型立像	元禄16(一七〇三)	67 × 32	(正) 元禄十六癸未年 四月初三日 (台座) 悟蓮 全了塔	(舟型上部欠落・風化)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
6-4	順礼供養塔(横堂)	舟型座像	元禄13(一七〇〇)	66×37	(正) 奉供養 横堂三十三所 観世音菩薩 元禄十三庚辰天 十月吉日 (如意輪)
6-5	馬頭観音	舟型立像	宝暦5(一七五五)	57×33	(正) 宝暦五乙亥 十一月十七日
6-6	石造物(不明)	自然石		52×32	(台六角柱)
6-7	聖観音	丸彫座像		52×40	(頭部欠落)
6-8	如意輪観音	丸彫座像		43×32	(頭部欠落・風化)
6-9	馬頭観音	舟型立像	宝暦5(一七五五)	53×32	(正) 宝暦五乙亥 十一月十七日 (舟型一部欠落・風化)
6-10	順礼供養塔(横堂)	円柱	正徳3(一七一三)	51×32	(正) 奉供養三十三所大慈大悲横堂観世音菩薩 忠兵衛母 与平次妻 源弥父母 小左衛門妻 源七妻 源右門母 正徳三癸巳三月吉日 富澤村住人 敬白
6-11	庚申塔	笠唐破風 角柱	延宝8(一六八〇)	140×48	(正) 正(左) 延寶八庚申年九月日 敬白 (右) 願主宗玄 駿州駿河郡富沢村中 (三猿浮彫)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
6-12	馬頭観音	山型角柱 くり抜	延宝8(二六八〇)	102×45	別記1(132頁) (聖観音)
6-13	順礼供養塔(横)	六角柱	享保12(一二二七)	72×46	(正) 奉供養横道順禮 三十三所観世音并 富沢村 庄左衛門母 清左衛門母 市兵衛 源弥妻 定輪寺村 太右衛門妻 〇左衛門 今人妻 伊〇衛妻 富沢村 久右門母 享保十二未八月吉日
6-14	順礼供養塔(横)	円柱	宝曆2(一七五二)	67×34	(正) 横道供養佛 宝曆二年 申国十月吉日 庄左衛門内 忠右衛門内 玄左衛門母 伝右衛門母 松右衛門 小左衛門内 孫兵衛娘 水窪村四郎兵衛内 千福村文左衛門娘 定輪寺村市郎兵衛
7-1	石灯籠	灯籠		142×49	(正) 献燈
7-2	石灯籠	灯籠		142×49	(正) 献燈
7-3	山の神塔(石祠)	祠	昭和53(一九七八)	75×61	(背) 昭和五十三年一月十六日 遷官
8	諸神(稲荷塚祠)	祠	天明8(一七八八)	53×44	(左) 天明八申三月 世話人 柏木林蔵 (右) 渡口氏母建之
9-1	馬頭観音	板石	大正14(一九二五)	80×71	(正) 馬頭観世音菩薩 大正十四年十二月 西尾新藏建之

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
9-12	道祖神	自然石		25 × 23	
9-13	石造物(不明)	自然石		67 × 66	(上部欠落)
9-14	馬頭観音・順礼供養 塔(西)	自然石	大正12(一九二三)	93 × 113	(正) 西國三十三番馬頭観世音菩薩 馬頭観世音菩薩 大正十二年十二月 渡辺初太郎建之
9-15	馬頭観音	自然石	昭和33(一九五八)	77 × 54	(正) 馬頭観世音菩薩 昭和三十三年九月八日 浅倉義兵建之
9-16	石造物(不明)	舟型		51 × 31	(風化)
9-17	順礼供養塔 (西・坂・秩)	自然石	文政13(一八三〇)	114 × 79	(正) 百番供養塔 文政十三庚寅初秋 願主 富澤邑 服部助左衛門
9-18	順礼供養塔 (西・坂・秩・横・ 駿豆新四国)	自然石	明治37(一九〇四)	126 × 62	(正) 奉納 西國坂東秩父横道駿豆新四国供養塔 明治三十七甲辰年 九月十八日 施主 服部久五郎 服部市太郎
9-19	庚申塔	櫛型	天明7(一七八七)	108 × 63	(正) 庚申塔 (右) 天明七丁未十月 (左) 富沢村講中

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
9-10	唯念名号塔	自然石	明治12(一八七九)	224×167	(正) 南無阿弥佉佛 天下和順 日月清明 蓮華講中 村内安全 九十歳 唯念(花押) (背) 明治十二(一八七九)五月吉日
9-11	觀世音菩薩	自然石	天保3(一八三二)	144×89	(正) 觀世音菩薩 (背) 千時天保三千天 辰十一月吉日 當邑 服部藤藏
10	諸神(神明)	祠		76×42	
11-1	道標	角柱	明治15(一八八二)	71×27	(正) 右むらみち 左やまみち (右) 明治十五年六月
11-2	道標	自然石		63×36	(正) 右ぬまつ 左みしま
12	無縁供養塔	板石	大正12(一九二三)	133×173	(正) 無縁供養塔 從往昔當家墓地在北方之近所而草莽塚矣遇發掘生人骨不知 其何人乎依而片山與平建之供養者也 大正十二癸亥年三月
13-1	馬頭觀音	舟型立像	寛保3(一七四三)	71×32	(正) 寛保三癸亥天 三月三日 文右衛門
13-2	馬頭觀音	自然石		70×62	(正) 馬頭觀世音
13-3	手洗石	鉢型		21×54	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
13 4	如意輪観音	丸彫座像		61 × 45	(頭部欠損)
13 5	庚申塔	円柱		63 × 50	(正) 圓 菩提願完全 敬白 見性道 仁左衛門 文右衛門 長左衛門 常藏 茂兵衛 固太 武兵衛 淨七 (上部欠損 三猿浮彫)
13 6	順礼供養塔 (西・秩・坂)	自然石	安政6 (一八五九)	118 × 58	(正) 觀世音菩薩 百番 供養 (背) 安政六己未晚春建之 當村 服部要助
13 7	順礼供養塔(西)	山型角柱	寛政10 (一七九八)	112 × 66	(正) 西國供養塔 (右) 寛政拾戊午年 願主 當邑 渡邊儀左衛門 同名權左衛門 (左) 十一月立之 服部助左衛門 同名元右門 同名藤右門
13 8	石造物(不明)			39 × 51	(残存 台座)
13 9	万靈塔	自然石	元禄10 (一六九七)	100 × 51	(正) 三界萬靈 願主 清營淨西 (左) 峯 元禄十丁丑九月日 施主 當村 渡部三右衛門 敬白
13 10	庚申塔	櫛型	元文3 (一七三八)	76 × 54	(正) 奉納庚申供養塔 (右) 元文三戊午天 源藏 助左衛門 施主 (左) 十月吉祥日 長左衛門 仁左衛門 市藏 (一猿浮彫)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
13 18	聖観音	丸彫立像		104 × 43	(台座) 生説信士 爲菩提也 施主當村 流以 (中央部割れ目)
13 17	石造物 (蓮華台)	蓮華台		25 × 45	(台座) 施主水久保村 渡部与右衛門 喜更淨歎 菴主 爲菩提也
13 16	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		88 × 44	(台座) 梅林清五大師爲菩提也 施主當村 渡部仁右衛門 (頭部欠落・中央部割れ目)
13 15	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		86 × 42	(台座) 施主 小関清左衛門 宗味 妙閑 妙真 爲菩提也 (頭部欠落)
13 14	観音菩薩	丸彫座像		82 × 45	(台座) 奉造立 千人講炊 叟定往生 勸主 清響淨西 敬白
13 13	順礼供養塔 (横)	舟型立像	明和5 (一七六八)	87 × 50	(正) 横道供養塔 明和五戊子九月吉日 (台座正) 文蔵母 茹七母 長左衛門母 中土狩 治兵衛母 者な とく (聖観音) 善蔵 い徒
13 12	順礼供養塔 (西・坂・秩・横)	山型角柱 くり抜	延享2 (一七四五)	91 × 78	(右) 西國坂東秩父横道供養塔 (左) 施主 水窪 甚石門 渡辺庄左衛門 大石市左衛門 服部清左衛門 同妻劫外苗春 (背) 延享二乙丑天十一月十七日 (千手観音)
13 11	順礼供養塔 (横堂)	笠付円柱	元文3 (一七三八)	107 × 47	(正) 奉供養横堂三十三所観世音菩薩 元文三歳 十月吉日 三郎右衛門 長左衛門 闕く 徒や せん そめ 水久保 たけ あき さん 志免 桃園村 なつ なつ せき いち 源弥 (宝珠欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
13-19	石造物(不明)	丸彫立像		46×41	(台座) 施主 水久保村 渡部與右衛門 爲悦恣理歳大姉菩提也 (上部折損)
13-20	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		80×43	(台座) 施主 當村 服部茂兵衛 同八郎兵衛 渡部勘兵衛 同仁右衛門 同文右衛門 同三右衛門 服部与平次 (頭部欠落)
13-21	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像	元禄7(二六九四)	87×43	(台座) 元禄七甲戌天 駿列富士郡 比那村施主 清譽淨西 此 九月日 富沢村立几 (頭部欠落・中央部割れ目)
13-22	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		95×42	(台座) 別傳妙教信士 爲菩提也 施主 玉川村 重宗 (頭部欠落)
13-23	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		92×36	(台座) 海安佑印信女 爲菩提也 施主 當村 渡部文右衛門 (頭部欠落・中央部割れ目)
14-1	鳥居	神明型	文政4(二八二二)	264×358	(左柱背) 文政四年辛巳九月吉日 (笠木・鳥木部割れ目)
14-2	碑(愛鷹神社改築記念碑)	板石	昭和43(一九六八)	164×242	別記2(132頁)
14-3	石灯籠	灯籠	安政6(一八五九)	138×60	(正) 奉獻燈 (右) 安政六己未年 十二月吉日 (左) 願主 服部助左衛門 (火袋補修)
14-4	石灯籠	灯籠	安政6(一八五九)	149×60	(正) 奉獻燈 (左) 安政六己未年 十二月吉日 (右) 願主 服部房右衛門 (土台・竿・火袋補修)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
14-5	石灯籠	灯籠	寛政9(一七九七)	107×45	(背) 寛政九[] (火袋右) 昭和三十八年 十月中未十八日 服部清司 再修覆 (笠・竿一部欠落 火袋補修)
14-6	石灯籠	灯籠	寛政9(一七九七)	108×46	(背) 寛政九巳年 (火袋左) 太正十二年九月 地震爲破害新調 施主 服部清藏 (火袋補修)
14-7	狛犬		昭和43(一九六八)	151×70	(正) 奉 (背) 昭和四十三年三月十六日 渡辺喜一 高島石材店刻
14-8	狛犬		昭和43(一九六八)	152×74	(正) 納 (背) 昭和四十三年三月十六日 渡辺實 高島石材店刻
14-9	手洗石	自然石	昭和29(一九五四)	43×89	(正) 奉納 通水記念 昭和二十九年十月二日 区長 服部清司外 水道組合員 一同
15-1	道祖神(单体)	浮彫立像	寛延2(一七四九)	98×56	(正) 寛延二天 己巳十月四日
15-2	道祖神(单体)	立くり 像 抜	文化7(一八一〇)	102×66	(正) 文化七庚午年 十一月再造也
16	馬頭観音	舟型立像	弘化2(一八四五)	74×37	(正) 弘化二年 巳三月十一日
17-1	石灯籠	灯籠		134×51	(正) 献燈 (背) 願主 服部房右衛門 (宝珠欠落・火袋補修)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
17 12	石灯籠	灯籠	大正10 (一九二一)	156 × 56	(正) 獻燈 (背) 大正十年十二月 (左) 海軍豫備少尉 正八位 服部勤 (火袋補修)
18 11	鳥居 (部分)			22 × 40	(正) 獻燈 (背) 明治四拾三年 十二月二拾六日 (台座左) 世話人 服部房太郎 服部清藏 服部萬平 外十三名 (火袋補修)
18 12	石灯籠	灯籠	明治43 (一九一〇)	182 × 87	(正) 獻燈 (背) 明治四拾三年 十二月廿六日 (台座右) 世話人 服部萬平 服部清藏 服部房太郎 外十三名 (火袋補修)
18 13	石灯籠	灯籠	明治43 (一九一〇)	193 × 87	(正) 獻燈 (背) 明治四拾三年 十二月廿六日 (台座右) 世話人 服部萬平 服部清藏 服部房太郎 外十三名 (火袋補修)

別記1 馬頭観音

(右) 如是畜生發菩提心

(左) 夫先年殺生餘依愚盲見於野馬殺其罪凝念□持故祭馬頭

観音□以佛供艱雖爲畜生□□□□三百滅佛凝也

施主 駿州富沢村

岨 延宝八庚申霜月十八日渡邊勘兵衛

別記2 碑 (愛鷹神社改築記念碑)

(正) 愛鷹神社改築記念碑 当愛鷹神社は天津彦火瓊瓊杵尊

を祭神とし社殿は明暦四年建立され 拜殿八坪本殿四

坪の平屋建草葺のまま爾來参百有余年の星霜を閲し

その間幾多の暴風豪雨 震害等の災厄に曝され 氏子の先祖はその都度補修に努めたが 既に老朽破損甚だしく改築のやむなき状態にたち至りました ここにおいて氏子一同相諮り 昭和参拾四年五ヶ年計画を立て 氏子皆さまの寄進五拾万円と境内地内立木の処分金五拾万円とを以て木造瓦葺の社殿改築を企て 五年後所期の資金確保を見ましたが 物価の上昇労賃の高騰など甚だしく 多大の資金不足に当面することとなり ために社殿改築は暫く挫折の危機に瀕しましたが時たまたま東名観光開発株式会社による桃園富沢地先にゴルフ場建設のことが実現し 富沢共有地宅町参反余を

同社に賃貸し 其の賃貸料一ヶ年分及び地上権補償のうち貳百五拾万円を権利者の議決により改築資金に流用する運びになりました 時勢の恵沢を蒙る氏子一同はここに力を得て将来を慮り 社殿を鉄筋コンクリート造り一部木造銅板葺を以て改築することに決定しこれがために不足する資金は再び村内外有志浄財の寄進を仰いで補うこととし 改築委員近隣参拾余社を見学 調査検討の結果を参考として 山口工務所に設計を依頼した この間特別委員による慎重なる協議の末 銅板現物支給による追加変更工事を含めて競争入札の結果渡辺組施行に決り 昭和四拾貳年九月拾九日着工 昭和四拾参年貳月拾四日付帯工事と共に左記工事費を以て完成することが出来ました 当初以来氏子總會四回 改築委員会貳拾回 特別委員会八拾回の多きを数えました これ偏に氏子一同の 神祇を崇敬し郷土を愛し人和を求める真心の発露であると共に關係各位の理解と協力との然らしむるところであり 向後村内各位が今回改築の意図する所を継承され永く後世に伝えられんことを祈念して ここに改築経過の概要を誌す次才であります

- 一、本殿四坪拝殿八坪金四百九拾壹万円
- 一、水屋壹坪金拾万円 一、庁屋参坪金拾貳万円
- 一、幟竿置場金五万円

昭和四拾参年参月吉日

撰文 富沢 服部芳太郎

(背) 社殿寄進者芳名 順序 金額イロハ順 静岡県神社庁長 原勝治謹書

- 一、金八拾万円也 丸江伸銅株式会社社長岡田健男
- 一、金参拾万円也 定輪寺住職中村一雄
- 一、金貳拾万円也 東名觀光開発株式会社
- 一、金参万円也 桃園渡辺昭次
- 一、金貳万円也 長泉町池田龜雄 全沼津市服部正保
- 全三島市服部勤一 全東京都渡辺文作
- 全沼津市山口工務所 全佐野山口勝治
- 全裾野町農業協同組合
- 全御殿場青果市場社長中村重男
- 一、金壹万円也 沼津市飯田瞭三 全佐野石上剛
- 全佐野原隆二 全服部助治 全桃園荻野初太郎
- 全横浜市渡辺熊雄 全沼津市富沢屋食堂
- 全佐野田代新聞店 全中西一郎 全梅原岩雄
- 全沼津市魚銀商店 全佐野久保隆 全沼津市遠藤三郎
- 全佐野江森甲子雄 全静岡市鈴木万平
- 全佐野鈴木茂能 全駿河信用金庫裾野支店
- 一、金五千元也 佐野高梨造花店
- 全東洋信託銀行静岡支店
- 一、金参千元也 静岡銀行裾野支店
- 全駿河銀行裾野支店 全中部相互銀行裾野出張所
- 一、狗犬岩対 村 渡辺喜市 渡辺実
- 一、金五万円也 服部清司 全服部芳太郎
- 全服部秋雄 全渡辺武彦 全柏木正 全富沢婦人会

一、金参万参千円也 渡辺正吾

一、金参万円也 服部誠吾 全服部素則 全服部逸人

全渡辺静市 全渡辺昭和 全渡辺茂 全渡辺哲夫

全渡辺隆雄 全渡辺滝夫 全渡辺治夫

一、金貳万五千円也 服部広吉 全片山芳雄

全田口昭一

一、金貳万円也 服部壽太郎 全服部勤 全服部三雄

全服部和男 全服部弥作 全服部寛 全服部清太郎

全服部善次郎 全服部祐作 全服部與作 全西尾信治

全渡辺孝四郎

一、金貳万円也 渡辺亘 全渡辺将 全渡辺道則

全渡辺壽雄 全渡辺義孝 全渡辺達也 全田口千代作

一、金壹万五千円也 渡辺信夫 全高橋作雄

全浅倉義貞

一、金壹万円也 井出晃十郎 全服部慎作

全西島末吉 全渡辺貞一 全渡辺富雄 全渡辺多喜男

全渡辺宗一 全柏木義男 全田口吉和 全中谷勇次郎

全安藤秀男

一、金七千五百円也 柏木進

一、金七千円也 渡辺時次郎 全渡辺精一郎

一、金五千五百円也 浅倉良作

一、金五千円也 渡辺隆 全渡辺豊 全田口勝夫

全田口三郎 全浅倉昇

一、金参千円也 渡辺五郎 全柏木春雄 全角田秀雄

全田口千秋

一、金参千円也 潮田映二 全宮沢要

一、金貳千五百円也 関谷鶴三

一、金貳千円也 川口揮八郎

一、金壹千貳百五十拾円也 柏木壽雄

一、金壹千円也 川口チエ子

一、金五百円也 荒木ひで

宮司徳田修次 改築委員長服部清司

全副委員長服部素則 全特別委員会計服部誠吾

全会计服部芳太郎 全会计服部秋雄 全渡辺静市

全岡田健男 全委员渡辺昭和 全渡辺武彦 全渡辺茂

全渡辺哲夫 全服部勤 全服部弥作 全渡辺隆雄

全片山芳雄 全渡辺滝夫 全高橋作雄 全服部和男

全渡辺実 全浅倉義貞 全服部與作 全渡辺道則

設計監督者山口工務所 施工者株式会社渡辺組

石工沼津石宗石材店

裾野の石造物点描

石造物と民俗

ムラの中には実にさまざまな石造物がある。庚申塔、道祖神、馬頭観音、その他多くの供養塔等々。古いものから比較的近年のものまで、歴史も種類も千差万別である。ムラの中の石造物は路傍や広場にあつて、その極めて無機質な印象を与える佇まいに、多くの無関心な方々はムラの生活とはかけ離れた冷たさを感じるに違いない。ところが、そのような印象の持たれる石造物であるが、中でも幾つかの石造物には、現在でもムラの生活と密接な関わりを持つているものがある。いわゆるムラの中で生きている石造物と言えようか。以下、市域の石造物を代表して、セヤーノカミ（道祖神）をムラの生活を通して眺めてみたい。

セヤーノカミ 市域では道祖神を「セヤーノカミ」と呼ぶことが多い。数多い石造物の中でもっとも親しみ深い一つであろう。セヤーノカミには「ムラの安全を守ってくれる神」とか「子供の健康を守る神」、「風邪から守ってくれる神」などの力があると信じられ、ムラに生きる人々の厚い信仰を集めている。ムラの中におけるセヤーノカミが鎮座する場所の問題について、一般的には、昔から「セヤーノカミはサイノカミ（塞の神）であるからムラの入り出口に鎮座してムラ侵入しようとするさまざまな災厄を防いでくれる」と言われ、集落の外れに当たる境がセヤーノカミの在す所と考えら

れてきた。しかし、今日では市域のセヤーノカミの多くが、近年の道路整備や区画整理工事などの理由により元の場所から大きく移転してしまっている場合が多く、セヤーノカミが本来鎮座していた場所や理由を推測するには困難になっている。市域でよく聞かれるイエナ（家名、屋号）の一つに「セヤーノカミド」と言うイエナがあり、土地では「セヤーノカミのある近所（前）の家」という理解がされているが、こうした点も含めてセヤーノカミとムラの配置関係を追跡・調査してみる必要があるであろう。

サイトヤキ 正月十四日の夕方に行われるニバンショウガツ（二番正月）のサイトヤキとセヤーノカミは関係が深い。サイトヤキは、子供たちがワカショウガツ（若正月）で使った注連縄やお飾りを集め、真ん中にオンベと呼ばれる竹を立て、火を付けて燃やす行事である。その火で「ダンゴを焼いて食べると一年間風邪をひかない」「モシジリ（火が付いた炭）でタバコを吸うと風邪をひかない」「書き初めを燃やして灰が空中高く舞い上がると字が旨くなる」等々、種々の火の効用が信じられている。また、サイトヤキの際には、厄年の者が、集まったムラの人々にミカンやお菓子を配るなどして自分の厄を払う。このようにサイトヤキはさまざまな厄払いの行事となっている。ムラの子供たちが行事の主催者だとしたら、一方のセヤーノカミは祭りの主役だと言えよう。「むかしやあ、セヤーノカミの場所、サイトヤキをやったもんだ」という。御宿の八幡さんにあるセヤーノカミは、最近までサイトヤキの火の中に入れられ、焼かれてきた。「セヤーノカミが人々の身代わりになってサイトヤキの火で災厄を焼き払ってくれる」と信じられてのことであった。すなわち、セヤーノカミは厄払いの神として位置づけられてきたものであり、

サイトヤキがセヤーノカミの近くで行われなければならない理由があったのである。最近のサイトヤキは二毛作の麦を作らなくなった休耕の田圃で行われることが多い。田圃の場合、広さは十分にあってサイトヤキの炎を燃え上がらせるには絶好の場所であるが、本来の「昔のサイトヤキはセヤーノカミの所でやったもんだ」という伝統が変った。

ムラの聖地 セヤーノカミが本来の場所から移り、サイトヤキとは関係なくなっても、昔から変わらないのはムラの人々の信仰であり、ムラを代表する生きている石造物であるという点であろう。一年を通じ、実にさまざまなものがセヤーノカミの前に流されたり、行事ごとのお供物が供えられているのである。ワカシヨウガツには小さな注連飾りとお供え餅が供えられる。やがてナナクサガイ（七草粥）も終わり、次のニバンシヨウガツまでは、ワカシヨウガツ中に家屋や屋敷で使用した古い注連縄やお飾りの納め場所となつてサイトヤキを待つ。ニバンシヨウガツ中は、小枝にダンゴを付けたダンゴボクが供えられる。三月から四月にかけて行われる女の子のヒナゼツクには、古くなった人形がセヤーノカミの所まで持ってこられる。また、須山、下和田地区では、建て前で使用した大きな祝いのコモカブリの樽などがセヤーノカミ前に納められる。こうしたものの全てがサイトヤキの火で浄められ、昇華する。そうした意味でセヤーノカミの前は、ムラでもっとも重要な聖地と考えられるのである。

（杉村 斉）



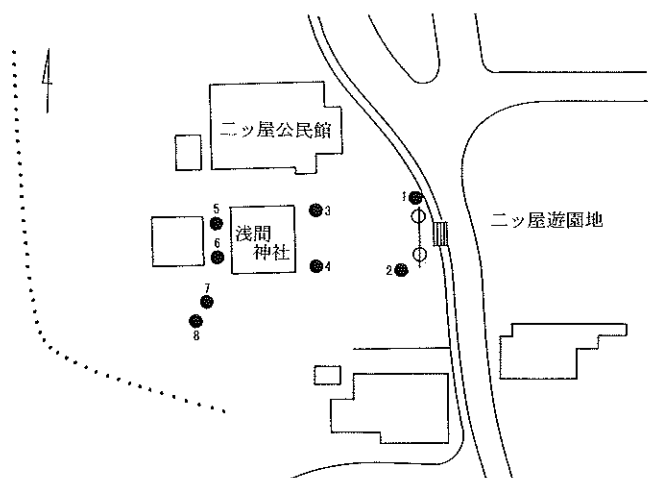
二番正月のダンゴが供えられたサイノカミ
（千福）



サイノカミ前は人形などが最後に行き着く
場所である
（富沢）

二ツ屋地区

ニッ屋地区



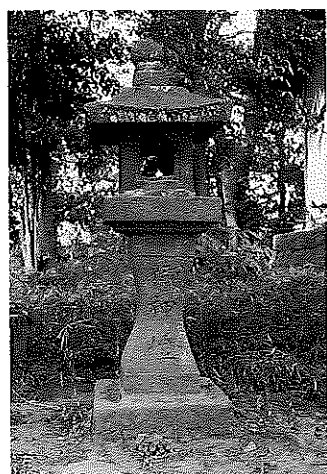
1 浅間神社



1-2 手洗石



1-1神社標石



1-7 石灯笼



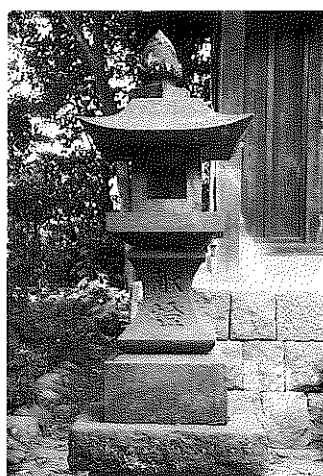
1-4 石灯笼



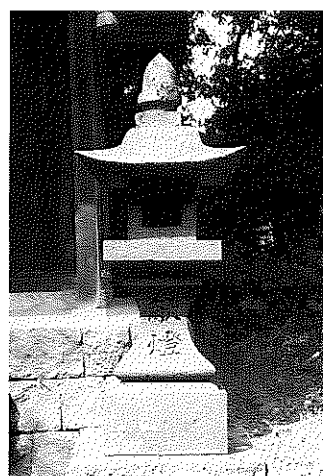
1-3 石灯笼



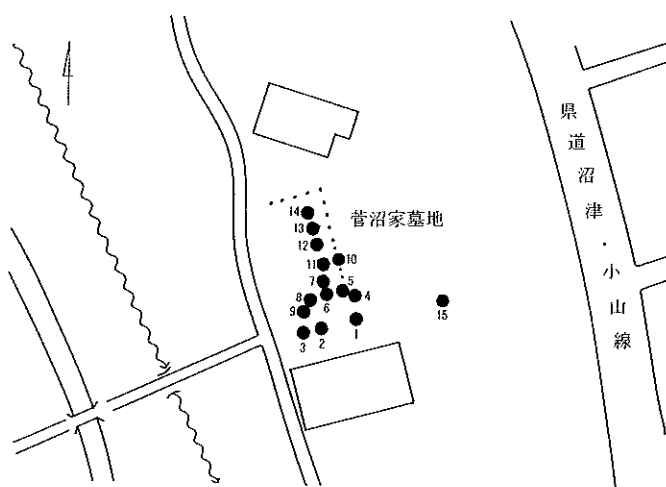
1-8 石灯籠



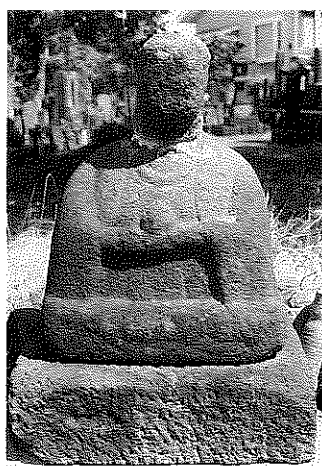
1-6 石灯籠



1-5 石灯籠



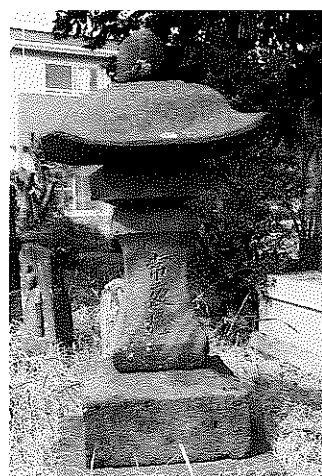
2 ニッ屋127-3 北



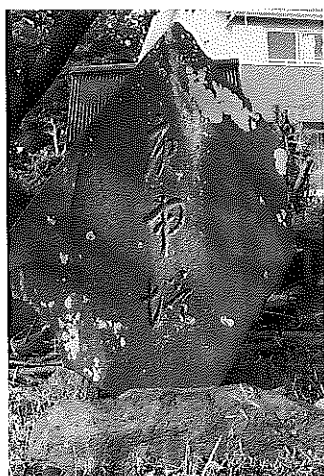
2-3 道祖神



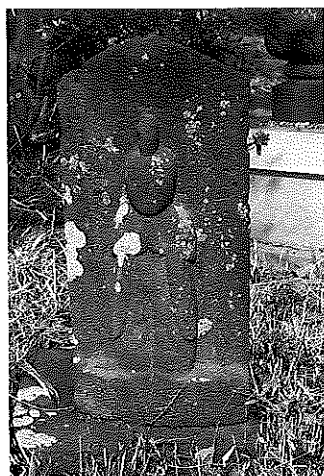
2-2 石灯籠 (部分)



2-1 秋葉山供養塔 (部分)



2-6 庚申塔



2-5 馬頭観音



2-4 馬頭観音



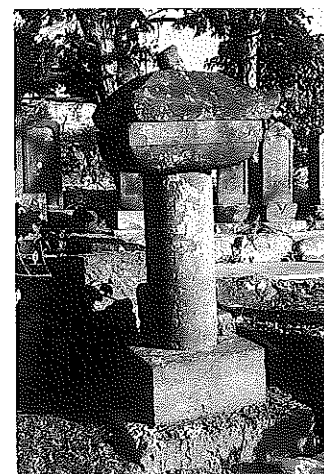
2-9 馬頭観音



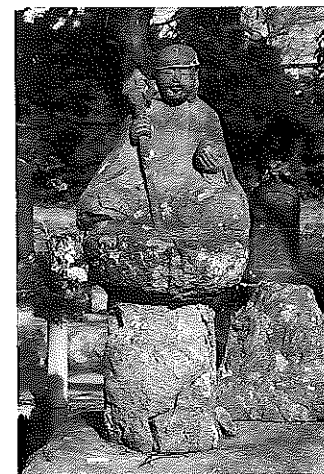
2-8 馬頭観音



2-7 庚申塔



2-12 石灯籠



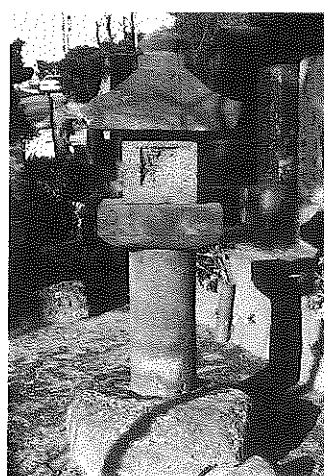
2-11 地蔵菩薩



2—15 文学碑（句碑）



2—14 石灯笼（筆子）



2—13 石灯笼（筆子）

二ツ屋地区石造物一覧表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
1-1	神社標石	角柱	昭和18(一九四三)	222×144	(正) 村社淺間神社 (背) 昭和十八年四月 飯塚鶴吉建之
1-2	手洗石	箱型	寛政5(一七九三)	56×77	(正) 奉獻 氏子中 (右) 寛政五癸丑年 九月大吉日 (菊紋章あり)
1-3	石灯籠	灯籠	寛政5(一七九三)	153×56	(正) 奉獻燈 寛政五癸丑仲夏 菅沼藤右衛門 (火袋補修)
1-4	石灯籠	灯籠	寛政1(一七八九)	144×54	(正) 奉獻燈 寛政元己酉仲冬 菅沼左五衛
1-5	石灯籠	灯籠	昭和11(一九三六)	209×74	(正) 献燈 (背) 昭和十一年十月 戦死者 菅沼才一郎母建之
1-6	石灯籠	灯籠	昭和11(一九三六)	209×74	(正) 献燈 (背) 昭和十一年十月 戦死者 菅沼才一郎母建之
1-7	石灯籠	灯籠	文政10(一八二七)	143×51	(正) 御神燈 (右) 文政十丁亥年孟夏 (背) 願主 村中
1-8	石灯籠	灯籠	文化4(一八〇七)	84×38	(正) 天満宮 願主 義助 甚助 (右) 梅佐希亭 睦月も廿日 あ満里可那 子未 (左) 文化四丁亭冬 (中台・火袋部欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
2-1-1	秋葉山供養塔	灯籠	嘉永5(一八五二)	120×63	(正) 秋葉山 常夜燈 (背) 嘉永五壬子年 孟夏建之 (中台欠損 宝珠・火袋欠落)
2-1-2	石灯籠	灯籠	天明5(一七八五)	142×53	(正) 奉造立石燈籠 天明五乙巳年五月 志主 ニツ谷講中 (火袋欠落)
2-1-3	道祖神(单体)	丸彫座像	延享1(一七四四)	77×56	(右) 延享元年 甲子七月廿二日 ニ口家新田 (頸部補修・頭部風化)
2-1-4	馬頭観音	舟型立像		37×24	(風化)
2-1-5	馬頭観音	舟型立像	天明5(一七八五)	67×41	(正) 天明五乙巳天 五月吉日
2-1-6	庚申塔	自然石		152×107	(正) 庚申塔 (一部欠落)
2-1-7	庚申塔	自然石		65×74	(正) 圍面金剛 (上部欠落)
2-1-8	馬頭観音	舟型立像		53×30	(上部欠落)
2-1-9	馬頭観音	舟型立像	明治8(一八七五)	46×31	(正) 明治八亥乙年 一月一日 (一部欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
2-10	地藏菩薩	丸彫座像		35×32	(頭部欠落・風化)
2-11	地藏菩薩	丸彫座像		131×87	(頭部割れ目・風化)
2-12	石灯籠	灯籠	寛政8(一七九六)	114×50	(正) 當村 開發菅沼四郎左衛門墓 維時 寛政八丙辰年臘月三日 第七世任 菅沼藤藏 値二百遠忌之日建焉 志主 村中 (宝珠欠損・火袋欠落)
2-13	石灯籠(筆子)	灯籠	寛政6(一七九四)	144×68	別記1(145頁) (火袋補修)
2-14	石灯籠(筆子)	灯籠	万延1(一八六〇)	191×98	(正) 岳譽南溪信士靈前 (左) 世話人 良吉 六平 村中 (右) 志主 門人中 (背) 萬延元庚申臘月六日建之
2-15	文学碑(句碑)	笠付石碑		109×70	(正) 辞世 夜者奈礼の 露まほろしや 蓮能花 來重

別記1 石灯籠(筆子)

(正) 心譽浄照信士靈前 門人 ニッ谷 渡辺善助

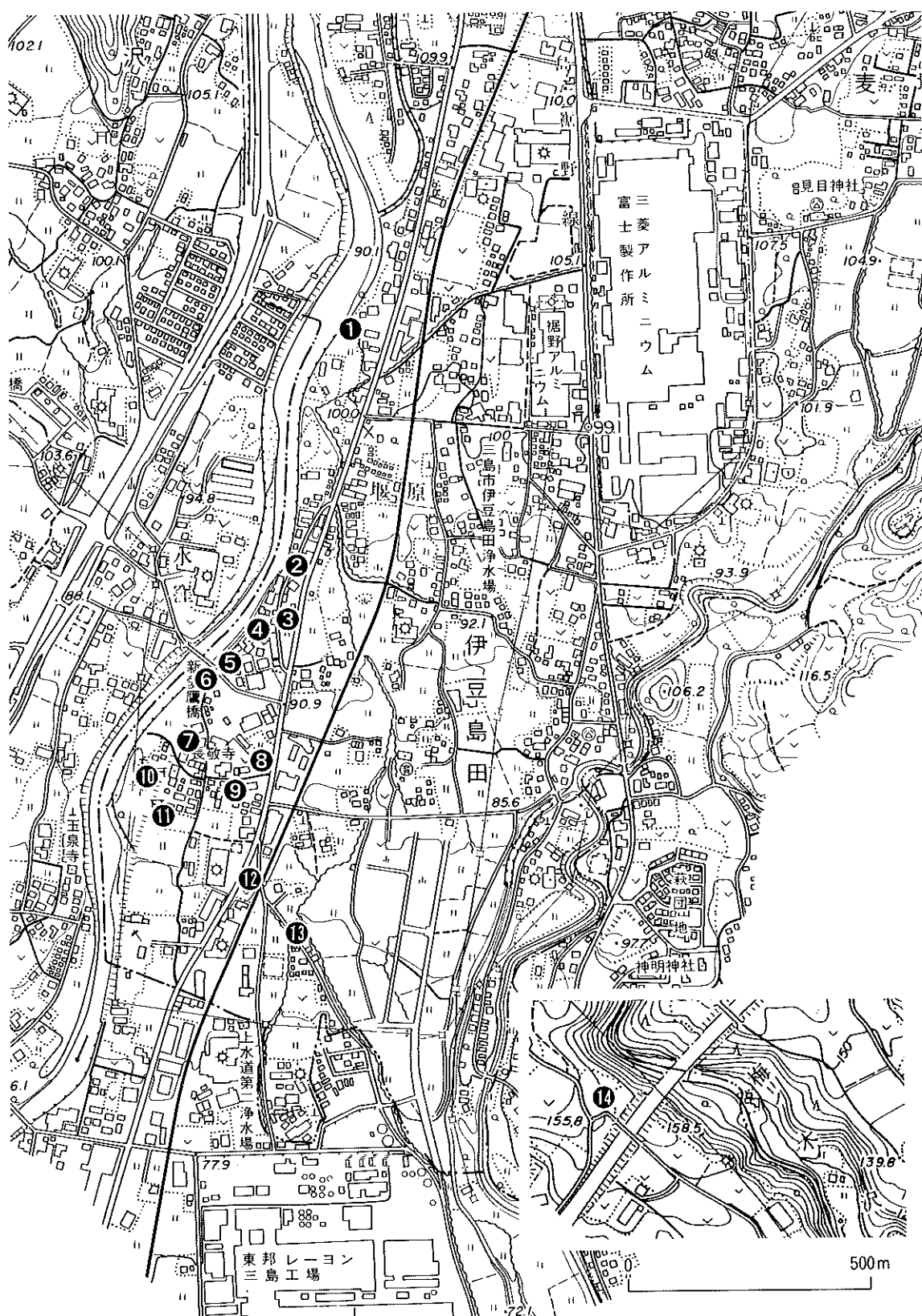
平松 高梨文藏 トミサハ 服部助左衛門

水クホ 渡辺半藏 ムキツカ 飯塚平八

志主 セキ原 渡辺二良兵衛 同 仁杉勘藏

寛政六甲寅三月 嫡男菅沼利昌

水 窪 地 区



水窪地区



1 碑（大堰桶門竣工記念）



3—1 唯念名号塔



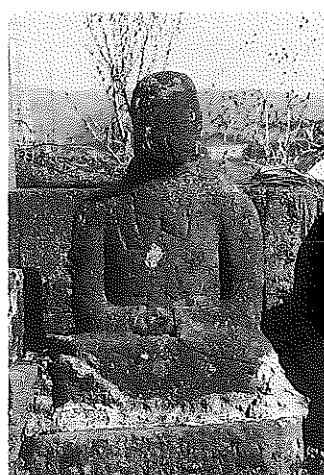
3 水窪161番地



3—4 石灯籠



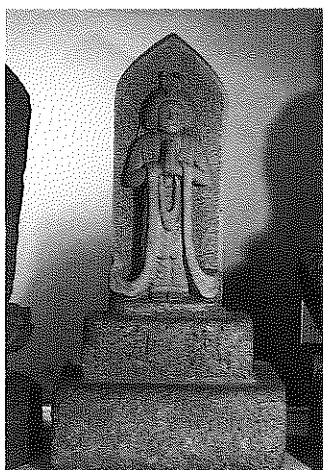
3—3 庚申塔



3—2 如来



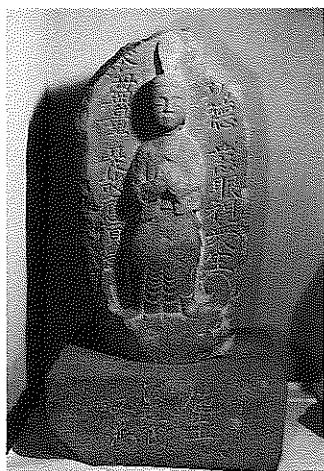
4—3 馬頭観音



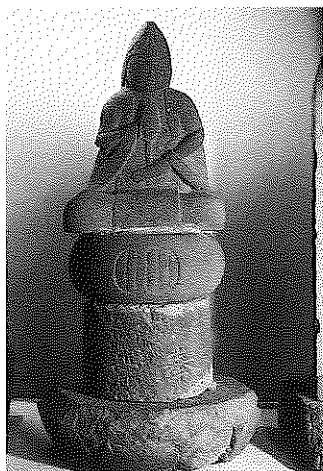
4—2 馬頭観音



4—1 順礼供養塔



4—6 馬頭観音



4—5 聖観音



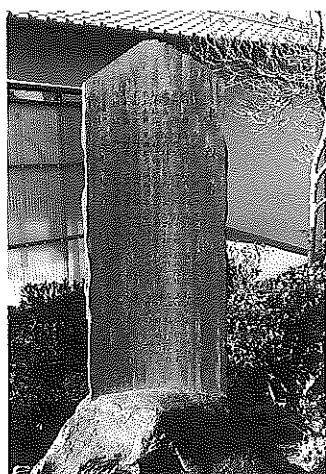
4—4 念佛供養塔



5—2 万霊塔



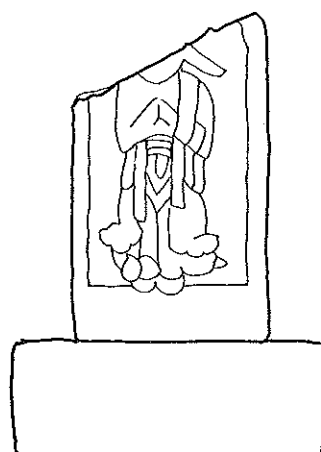
5—1 碑（愛鷹橋復興記念碑）



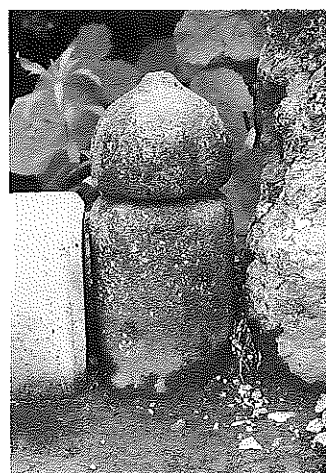
6-2 碑（建設者氏名碑）



6-1 碑（渡辺孫三郎翁彰徳碑）



5-3 馬頭観音



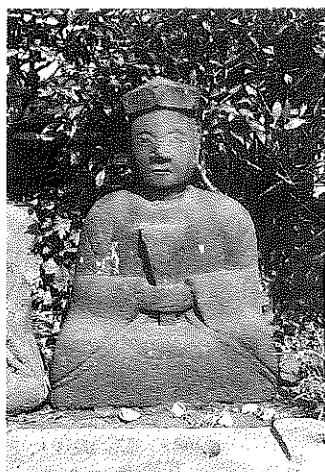
7-2 石段袖石



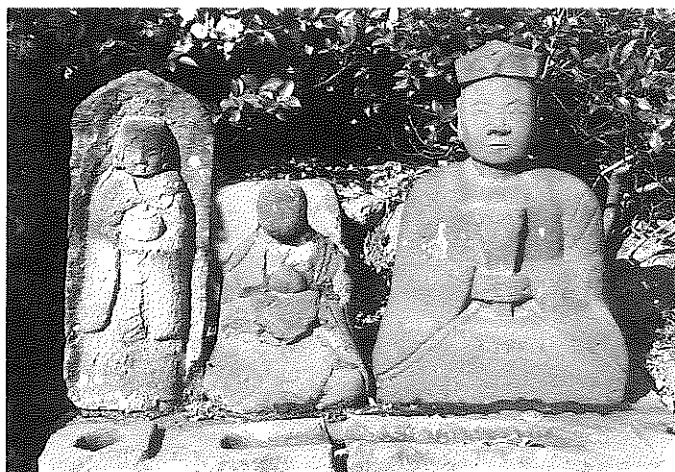
7-1 碑（長教寺由来）



7-3 寺院標石



8—2 道祖神



8 水窪140番地



9 馬頭観音



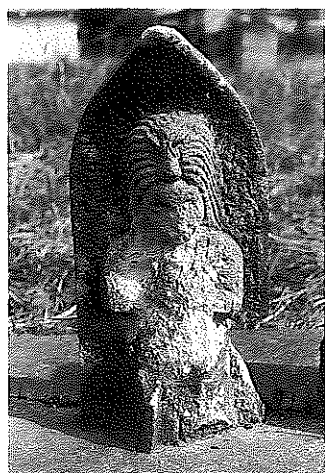
8—4 地藏菩薩



8—3 地藏菩薩



10 水窪グランド



10-3 馬頭観音



10-2 馬頭観音



10-1 馬頭観音



10-6 馬頭観音



10-5 馬頭観音



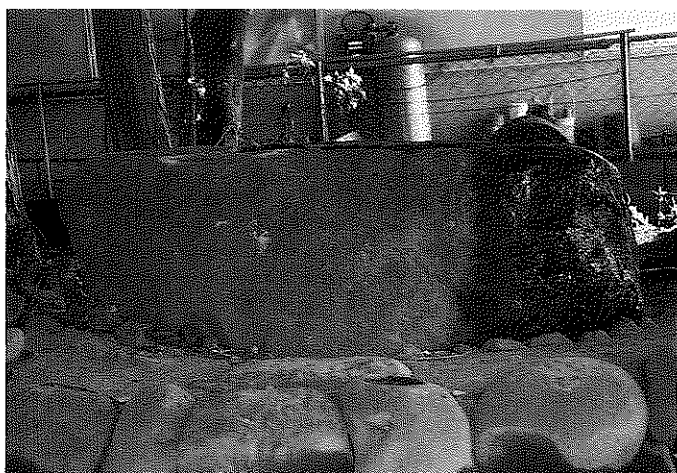
10-4 馬頭観音



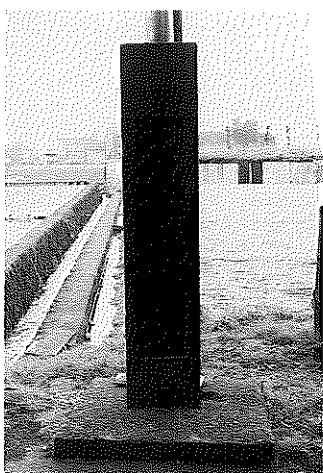
10-8 馬頭観音



10-7 馬頭観音



11-3 手洗石



11-1 幟立



11-5 石灯籠



11-4 石灯籠



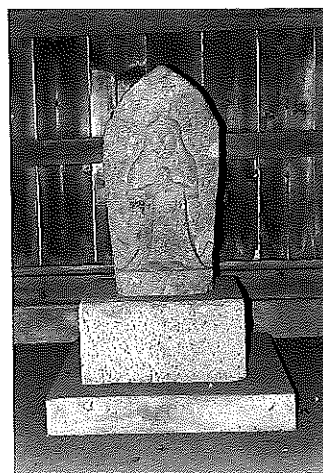
12-4 碑
(鉄道碑死之群霊追善)



12-2 3 宝篋印塔・五輪塔 (部分)



12-1 石造物 (花立)



14 馬頭観音



13 碑 (穴堰隧道改修記念碑)



12-5 題目塔

水窪地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
1	碑 (大堰樋門竣工記念)	板石	昭和59(一九八四)	161×187	別記1(162頁)
2	石造物(土台石)	自然石			(土中埋没)
3-1	唯念多呂塔	自然石	明治10(一八七七)	228×160	(正)南無阿彌陀佛 天下泰平 日月清明 中講義龍澤唯念 (左)明治十年 己十二月 村内講中 世八人 関野喜三 渡邊文次郎 森田大八
3-2	如来	丸彫座像		75×44	(頸部補修・風化)
3-3	庚申塔	笠唐破風 角柱	貞享1(一六八四)	175×55	別記2(163頁) (三猿浮彫)
3-4	石灯籠	灯籠		107×57	(正)御寶前 十一月 志衆中 駿東郡富田中 (竿一部欠損 宝珠・中台・火袋部欠落 上部五輪塔火輪部)
3-5	順礼供養塔(横)	角柱		65×45	(正) 道供 (角柱一部欠落)
3-6	石造物(不明)	自然石		93×55	(上部補修)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
4-1-1	順礼供養塔	丸彫座像	宝永3(一七〇六)	118×53	別記3(163頁) (一部欠落/如意輪/水窪公民館内)
4-1-2	馬頭観音	舟型立像	明治43(一九一〇)	94×50	(右) 明治四十三年八月廿九日 (左) 渡辺喜三郎 (台座正) 渡辺 (水窪公民館内)
4-1-3	馬頭観音	舟型立像	明治3(一八七〇)	96×34	(正) 明治三庚午歳 四月吉日 (台座) 世話人 二本松新田 杵山政右衛門 同村渡邊平吉 同屋野戸平 同森田文八 関野喜三郎 (台座欠損/水窪公民館内)
4-1-4	念佛供養塔	舟型立像	元禄7(一六九四)	91×38	(正) 立當地與次走百日夜念佛行者 豈元禄七甲戌載 爲清蒼浄西後生善所也 水久保村 (舟型一部欠落・頭部欠損/聖観音/水窪公民館内)
4-1-5	聖観音	丸彫座像		88×33	(正) 奉嗣 寶 (円柱折損/水窪公民館内)
4-1-6	馬頭観音	舟型立像	寛延4(一七五二)	88×45	(正) □□功德 慈眼視衆生 □□海無量 是故應頂禮 (台座正) 施主 渡邊氏又右衛門 (台座背) 寛延四歳 未辛九月吉日 (舟型・頭部欠落/水窪公民館内)
5-1-1	碑 (愛鷹橋復興記念碑)	板石	昭和34(一九五九)	216×161	別記4(163頁)
5-1-2	万霊塔	自然石	文化7(一八一〇)	198×97	(正) ○ 萬霊等 (右) 文化七年天三月十五日 (中央部補修・上部欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
5-3	馬頭観音	立くり 像抜	文政10 (一八二七)	101 × 82	(右) 文政十一年 (左) 月廿六日 (上部折損)
5-4	宝篋印塔(部分)			13 × 19	(残存 笠部・風化)
6-1	碑 (渡邊孫三郎翁彰 徳碑)	板 石	昭和26 (一九五一)	188 × 138	別記5 (164頁)
6-2	碑 (建設者氏名碑)	板 石	昭和26 (一九五一)	175 × 92	別記6 (164頁)
7-1	碑 (長教寺由来)	板 石	昭和63 (一九八八)	105 × 152	別記7 (164頁)
7-2	石段袖石	円 柱		43 × 18	(一対)
7-3	寺院標石	自然石	昭和60 (一九八五)	190 × 156	(正) 常水山長教寺 (背) 昭和六十年七月三十一日
8-1	石造物 (線香立)	箱 型		21 × 92	(正) 奉納 (中央部割れ目)
8-2	道祖神 (単体)	丸彫座像		60 × 39	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
8-3	地藏菩薩	丸彫座像		39×28	(頸部補修・頭部風化)
8-4	地藏菩薩	舟型立像		54×23	(一部風化)
8-5	地藏菩薩	丸彫座像		43×32	(頭部欠落)
8-6	地藏菩薩	丸彫座像		60×36	(頭部欠落・風化)
9	馬頭観音	舟型座像	大正8(一九一九)	89×36	(正) 大塚 馬頭観世音 大正八年五月
10-1	馬頭観音	舟型	昭和10	45×26	(正) 馬頭観世音菩□ 昭和十□年九月二十日 渡邊静儀 (中央部割れ目補修・下部コンクリート没)
10-2	馬頭観音	山型角柱	嘉永5(一八五二)	45×24	(正) 馬頭観世音菩□ 嘉永五子年 十二月吉日 (馬頭浮彫うち一つは欠損・下部コンクリート没)
10-3	馬頭観音	舟型立像		50×25	(風化・下部コンクリート没)
10-4	馬頭観音	自然石	明治24(一八九一)	46×34	(正) 馬頭観世音菩□ 明治廿四年卯月秋 村内安全 講中 (下部コンクリート没)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
11-5	石灯籠	灯籠	天保4(一八三三)	131 × 46	(正) 奉納 (右) 天保四歲癸巳 六月吉日 渡邊新家 (宝珠・笠・火袋補修)
11-4	石灯籠	灯籠	大正11(一九二二)	126 × 45	(正) 奉納 (左) 大正十一歲壬戌九月吉日 (右) 渡邊新家 (火袋補修)
11-3	手洗石	自然石		61 × 178	
11-2	鳥居(部分)			41 × 80	(龜服一対)
11-1	幟立		昭和27(一九五二)	190 × 100	(正) 水窪神社 (左) 昭和廿七年一月中浣 氏子中
10-8	馬頭観音	自然石		25 × 25	(下部コンクリート没)
10-7	馬頭観音	自然石		27 × 18	(正) 馬頭観世 (下部コンクリート没)
10-6	馬頭観音	浮彫立像		28 × 22	(光背一部欠落・下部コンクリート没)
10-5	馬頭観音	自然石	昭和5(一九三〇)	47 × 27	(正) 馬頭観世音菩薩 昭和五年七月建之 渡辺良吉 (下部コンクリート没)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
12-1	石造物(花立)	角柱		64×24	(正) 寄附 三島芝 石清
12-2	宝篋印塔(部分)			15×18	(残存 笠部)
12-3	五輪塔(部分)			15×23	(水輪東)  (南)  (西)  (北)  (残存 水輪部)
12-4	碑(鐵道磔死之群靈追善)	自然石	大正12(一九二三)	140×77	(正) 南無妙法蓮華經 玉澤 日貞(花押) 鐵道磔死之群靈追善 震災横死之諸靈菩提 (背) 維持大正十二年 駿東郡水久保村 杉山喜之太郎立之
12-5	題目塔	板石	大正6(一九一七)	106×74	別記8(165頁) (一部欠落)
13	碑(穴堰隧道改修記念碑)	板石	平成5(一九九三)	200×196	別記9(165頁)
14	馬頭観音	舟型立像	明治33(一九〇〇)	79×40	別記10(165頁)

別記1 碑(大堰樋門竣工記念)

(正) 大堰樋門竣工記念碑 県営ため池等整備事業

大堰土地改良区 長泉町長 高橋正三書

(背) 理事長渡邊四郎 副理事長有賀弘 同土屋正一

理事渡辺信吾 同平野忠秋 同木村弥太郎

同高橋久雄 同鈴木茂 昭和五十九年三月吉日建之

土地寄贈 渡辺幸雄 石工 吉川正嗣

別記2 庚申塔

(正) ○ ○

(背) 密以 南閭溪提東海道駿河國駿河郡水窪村居住善男子
等累年預懼心氣度鬼之病悩發大願女各集會而毎年六慶
守庚申積功今當散□皆抽□□奉造立石碑一基以伸供養
伏□信心願主一心清淨衆人慳安福寿延長子孫榮盛現世
安穩後生善処乃至法界平等利益

干時貞享元甲子歲林鐘吉辰 各敬白

(右) 座到鷄鳴心地清 三彭三尸去三明

願主 柏木久右衛門 渡邊淨敏

(左) 現當安樂悉知處 一念成功多夜情

願主 勝俣忠兵衛 渡邊甚兵衛

別記3 順礼供養塔

(台座) 順禮供養 圖永三 二月廿九日 中村藤八

土狩村 困山弥左門 清蒼淨西 圖沢□色村

渡辺五右門 納米里村 □□図門 田図困

室伏仲右門 渡辺 □□ 水窪村 □□ 政助

同 □□

別記4 碑 (愛鷹橋復興記念碑)

(正) 愛鷹橋復興記念碑 昭和卅四年四月廿八日 竣工

建設大臣 遠藤三郎

(背) 愛鷹橋由来の記 愛鷹橋は元水窪橋と称し岩石の上に
丸太を渡し板を打ちつけて僅かに人馬と荷車が通行し

て居たが出水の都度流失して交通杜絶するので明治四十二年高き十二尺のピーヤを築き木橋を架して愛鷹橋と改称した大正十三年の洪水で橋桁が流失したので電車軌道のレールを購入之を桁としたが昭和十六年の洪水にて又々流失した依つて止むなくピーヤの上部へコンクリート三尺を継ぎ足しレールを桁として面目を一新した然るに昭和三十一年六月二十四日未曾有の大洪水にて中央部の橋桁流失他の部分も破壊されて通行不能となった貧弱なる当区は如何にして復旧すべきか区民一同呆然自失爲す術を知らなかつた偶々建設大臣遠藤三郎先生の御力に縋り特損工事として架橋方了解を得て関係官庁に申請熱意を以て陳情を重ぬる事二年有半遂に吾等の願を容れられ昭和三十三年末PSコンクリ使用の永久橋を建設さる事となり即時着工して昭和三十四年四月二十八日竣工五月三日渡橋式を挙げ記念の碑を建立す

愛鷹橋復興委員 水窪区長渡辺慎一 委員長奥村廣
副委員長 石井喜作 渡辺喜一 飯田喜太郎
関野末作 渡辺清 星野安永 澤村一郎 関野林作
市川一男 石井高次郎 石井長由 石井行夫
石井重雄 市川昭三 長谷川藤作 長谷川昭二
星野敏郎 星野嘉一 星野正勝 星野佑次郎
渡辺覺正 渡辺幸雄 渡辺貢 渡辺静儀 渡辺周作
渡辺信吾 渡辺彦久 加藤種作 川口秀雄 米山典長
立林吉武 野木銀作 黒田泰久 小柳徳次郎

水口政好 平澤昇 森田明 芹澤六郎 関野星平

関野平吉 関野留吉 関野永歳 関野友吉 関野政雄

関野合三 関野孝一 関野宏 杉本義雄 杉山吉男

鈴木太郎 杉本高 杉山宗一 鈴木三郎 (イロハ順)

別記5 碑 (渡邊孫三郎翁彰徳碑)

(正) 渡邊孫三郎翁彰徳碑 農林大臣 広川弘禪 (花押)

(背) 渡邊孫三郎翁ハ近世文化未タ成ラス幕末物情騒然タル
文久三年十月水窪ニ生ル明治十九年廿四歳ニシテ佐野
村外十二ヶ村聯合村會議員ニ舉ケラレ爾來昭和廿二年
ニ至ル六十三年ノ長キニ亘リ連續村會議員タリ其ノ間
収入役助役ヲ經テ村長十年ヲ歴任シ人民總代常設委員
區長ヲ兼ル事實ニ六十有余年又小泉村農會長信用組合
長愛鷹山組合會議員其ノ他ノ議員委員ニ舉ケラレタル
事故舉ニ違アラス明治廿二年愛鷹山組合開墾地貸與規
則制定セラルルヤ將來其ノ必要性ノ重大ナルヲ察知シ
他ニ先シテ區民ノ爲メ至便且ツ肥沃ナル土地獲得ニ奔
走シ以テ其ノ目的ヲ達成シタリ又内野山九十七町歩ノ
入會權設定ニ盡瘁シ一面植林事業ノ有望ナルニ着眼シ
區有林ノ造成ニ努メ其ノ面積廿余町歩ノ美林ヲ有スル
ニ至リタル等區民ノ福利増進ニ寄與シ現今農業經營合
理化ノ基礎ヲ成スニ至ラシメタル功績甚大ニシテ眞ニ
感謝措ク能ハス茲ニ郷党相計リ頌徳碑ヲ建立シ以テ翁
ノ偉徳ヲ稱エル所以ナリ

昭和二十六年四月三日 普明天產書

石工 納米里 吉川榮作

別記6 碑 (建設者氏名碑)

(正) 建設者 渡辺彦久 長谷川知應 市川一男

星野佑次郎 杉本新作 星野安永 渡辺覺正

水口正好 森田源作 関野勇藏 星野嘉一 渡辺磯吉

杉山吉男 野木銀作 奥村廣 関野留吉 平澤昇

鈴木太郎 石井隆作 渡辺静儀 関野かね 渡辺喜一

関野林作 関野宏 星野仁作 石井一男 渡辺幸雄

後藤末雄 鈴木梅吉 澤村一郎 関野合三 渡辺貢

石井高次郎 川口秀雄 勝又清一 米山長英

黒田泰久 関野永歳 渡辺慎一 石井長由 立林武雄

市川源作 米山元章 関野末作 関野政雄 関野平吉

加藤種作 杉本勇 高梨松男 杉本義雄 関野勝藏

星野敏郎 渡辺周作 長谷川藤作 協力者 高和良作

市川昭 小柳徳次郎 飯田喜太郎 渡辺信吾

石井喜作 芹澤六郎

昭和二十六年四月三日

台石寄贈者 南一色 宮川良作
造庭 二本松 森崎久作

別記7 碑 (長教寺由来)

(正) 長教寺由来 開基 釋常念 寛永十年四月十八日寂

俗名を渡邊藏人と称し武田信玄公の家臣なり。家来一
族と当地に陥ち延び堂を建て長教寺を起す。

室は釋慶智信女 慶安四年二月十七日寂

当山は山号を常水山と号し、阿弥陀如来を本尊と拝し、宗祖親鸞聖人の他力の信心を教法する真宗大谷派の末寺なり。開基釋常念より第十三世釋覺正まで凡そ四百年を経ず。

昭和六十三年十二月三十日

寺標建立に寄進せし 門信徒建之 釋千正書

別記8 題目塔

(正) 南無妙法蓮華經 本覺寺五十世 円久寺二拾七世

歳在八十

(背) 明治二十二年鐵路通此地于茲二十餘歳其間殞命此處者

實及多三十有餘其因雖有或由過矢或由悲其前途之運命者均是同胞可堪悼惜哉 凡人不得其死處則魂遂不可歸秋風肅々夕鬼哭啾々有迫人思亦可謂宜矣于茲建碑以祈故人之冥福併警後昆矣

大正六年十一月 長泉村納米里 杉山喜之太郎建之

別記9 碑 (穴堰隧道改修記念碑)

(正) 穴堰隧道改修記念碑

昭和六十一年着工 平成元年竣工

平成五年八月吉日建之

大堰土地改良区理事長 渡邊四郎

長泉町長 高橋正三書

(背) 大堰土地改良区役員 渡邊四郎 高橋久雄 星野安永

別記10 馬頭観音

(正) 明治三十三年 四月十八日

(左) 東村 石工 北原竹次郎

(台座右) 發起人 二本松關野為吉 南一色尾崎和吉

水久保星野友次郎 富沢田口久蔵

世話人 南一色 上杉藤太郎 長田楠次郎

渡邊五十治 宮川榮吉 水久保 關野作蔵

關野喜代次郎 渡邊安太郎

(台座左) 富沢 服部留蔵 渡邊梅蔵 服部林蔵 納米里

上玉狩 納米里 宇津木和三郎 山田善八

渡邊啓次郎

(花立) 奉獻・平賀石材・平賀丈太郎

有賀弘 杉山弘昭 平野忠秋 渡邊隆一 萩野良一

諏訪部將治 小野保 鈴木勲 水口聖 渡邊利夫

後藤等 芦湖水利組合水配人 諏訪部勉 吉川清治

山下嘉廣 土地提供者 星野安永 渡邊信吾

渡邊厚 長谷川弘 渡邊隆司 渡邊二三

裾野の石造物点描

裾野市の馬頭観音

市域の石造物のうち、種類別で数量がもつとも多いのは馬頭観音である。どこの集落にも必ずあり、しかも近世初期の一六八〇（延宝八）年から現代の一九九〇（平成二）年まで造立され続けてきた石造物である。その数の多さもさることながら、馬を供養することがいかに重視されてきたかがわかる。つまり人々は馬を利用して生活をいとなんできたと同時に、馬とともに暮らし馬を家族同様に慈しんできたのである。

村の生業と馬の数

裾野市では、ムラによって農耕・運搬用に馬が各戸に一頭以上飼われていたところもある。近世の明細帳によれば、一六七七（延宝五）年の下和田では、家数三八軒で馬は一〇一疋飼われていた。一六八六（貞享三）年の須山では、家数一一八軒で馬は一四〇疋、牛三〇疋がいた。ところが、同じ年の公文名・稲荷では、家数五七軒に対して馬三二疋、牛四疋と少ない（『裾野市史』第三巻 資料編近世）。この違いは、馬を農耕と運搬のどちらに比重をおいて使っていたかによる。すなわち山がちの須山や下和田では水田耕作は行われないが、馬は炭や薪、茅、草などの搬出・運送に多く利用されてきた。一方、耕地の多い公文名などでは、馬はおもに耕起や代掻き、堆肥作りといった農作業に利用されてきた。とくに農作業は共同で行われるため、

馬はいわば共有物のような存在で、各家で馬を飼わなくても、互いに貸し借りをすれば事足りた。このようなムラの生業の違いが、馬の頭数の違いにもあらわれているのである。もつとも近世中にも、畑を水田に替えたり、新田を開発したりすることによって、ムラの生業も変化してはいる。

馬の飼育とアサクサ

それでは実際、馬はどのように飼われていたのだろうか。たとえば茶畑のある家では、夏は午前四時半頃起きて人間の食事より先に、まず馬に飼料を与える。馬にはオシギリで短く切った藁に米糠を混ぜた飼料と、サツマイモやニンジン、ダイコンの葉などの菜類、それにバケツ一杯の水を与える。なお餌は飼料が空になるたびに与えるが、米のとぎ汁やうどんやそばの茹で汁なども捨てず、また食事の残飯などもすべて飼料にしたという。山で刈ってきた草は飼料になると同時に、馬に踏ませて堆肥にした。

馬の飼料となるマグサ（馬草）は、夏の間に箱根山の共有地に行って、一年分の草を刈っておく。とくに盆前後は、アサクサ（朝草）といって朝四時頃には家を出て山へ行き、午後二時頃まで草を刈って、草を三把ずつ馬の小荷駄鞍に振り分けて帰ってきた。また公文名では、現在でも七月一八日の馬頭観音の祭りに、念仏講の女性たちが三カ所の馬頭観音前で念仏を上げる。このとき赤飯のむすびを供えるが、かつてアサクサを刈って山を下りてくる人たちにこのむすびをアサメシとして振る舞うのが恒例であったという。

茶畑の馬の草刈り場は、「延宝五年十一月 茶畑村明細帳」によれば、「馬之草刈場、当村が東山公文名境かるとう坂・あいしやう原・神なり松・はたほこ・大谷・もちり杉・しんなし・かにが窪・ござ

の尾・いち場たいら・牛坂・まごめ・うしろ山・丸塚・瀧之沢・市之瀬筋迄、此道法当村々・沓里又ハ沓里拾四五町程御座候、右之山ニ而草・かり敷・かやもかり申候」とあり、かなり広い範囲にわたっていたことがわかる（前掲書）。

鬼鹿毛馬頭観世音

この中に「あいしやう原」という地名が出てくるが、現在公文名の念仏講が祀っている馬頭観音のひとつが、この通称アイセイバラ（相生原）というところにある。こんもりとした小丘の上に建っている二基の馬頭観音のうち、「鬼鹿毛馬頭観世音」と刻まれた一八七六（明治九年）のものがある。

「鬼鹿毛」というのは、小山町新柴の円通寺に祀られている本尊の馬頭観音の名前である。寺の伝承によれば、新柴で息絶えた小栗判官の愛馬「鬼鹿毛」を供養するために祀られたものだという。円通寺を一躍有名にしたのは、幕末から明治初期にかけて住職であった柏英が、「馬屋祈禱」をして歩いたことがきっかけである。「円通寺の馬屋祈禱」は、小山町内はもとより静岡県中東部地域から田方郡、神奈川県は足柄上・下郡、山梨県は南・北都留郡、郡内地方にまでまわって行ったという（『小山町史』第九巻 民俗編）。

市域では「新柴の観音さん」と呼ばれており、茶畑では終戦頃まで正月から春までの間に円通寺の住職がまわってきて、厩の祈禱をした。また四月一八日の大祭には、こちらからお参りに行ったものだという。家畜が減り始めた一九五五（昭和三十）年以降は「馬屋祈禱」も下火になったが、現在では運送会社や競馬関係者などが新柴の観音さんの祭りに来て祈禱札を受けていく。これは、かつて博勞（牛馬の仲買商人）や馬力などの運搬業者が多かった時代に、至

るところで草競馬が催されていたため、その馬場の清めの祈禱にも新柴の観音さんの力を借りていた名残である。そういう馬場には、必ず馬頭観音が祀られていたという。



ババカンノンの祭り（茶畑相生原）

馬場に祀られた馬頭観音

富沢の周辺では、草競馬の馬場は四カ所あった。草競馬は、まず根方の柳沢の観音（現沼津市柳沢）で二月一九日に行われ、次に手城の観音（現長泉町八分平）で四月三日に、その次に三島市徳倉の観音で四月一〇日、最後に根方の高山の観音で四月一四日に行われる。富沢のもと博勞だったKさんは、この四カ所を馬を連れて渡り歩いたという。現在でも行われているのが御殿場市板妻の草競馬で、手城の観音と同じ四月三日に催される。

この通称手城の観音が祀られている場所は、長泉町南一色の共有地、馬頭観音は富沢・水窪・長泉町南一色・同納米里・同上土狩の五区が共同で祀っていた。現在は、富沢が抜けて祭りは四区が輪番

制で行っている。この観音の祭りは、四月三日の神武さんの祭り（神武天皇祭）にあわせて行われ、余興として草競馬が催されたのである。かつて当番は五区の輪番制で、商店から寄付を募って優勝旗を作り、観音が祀られている場所から馬場までは幟を立て並べて道案内をしたという。



手城の観音（長泉町南一色）

馬頭観音が建てられる場所

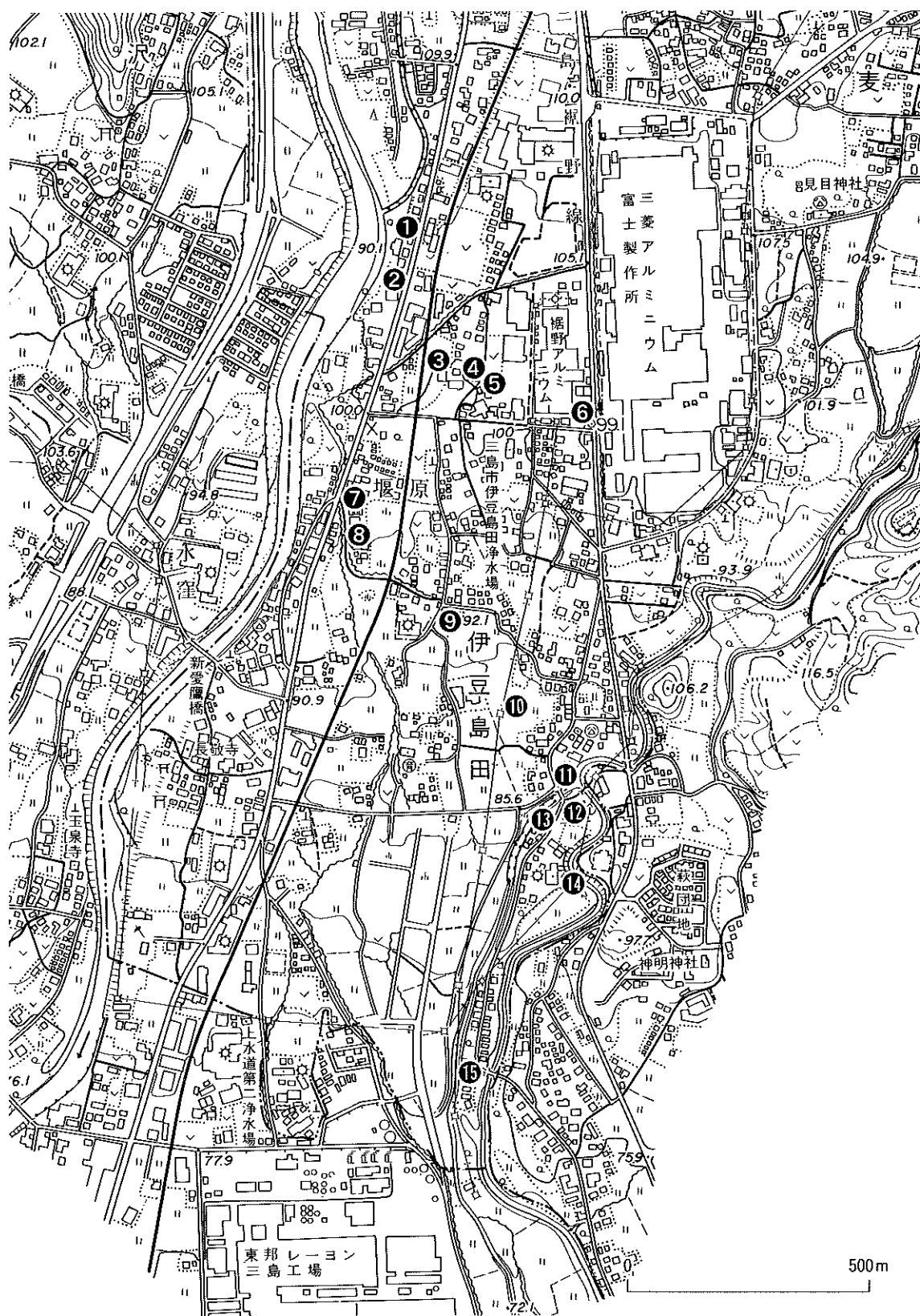
馬頭観音が造立された年代を見ると、圧倒的多数が一八〇一（享和元）年から一九四〇（昭和一五）年までである。幕末から日中戦争前までは、馬の供養と健康祈願をこめて馬頭観音が盛ん

に造立されていた。しかし馬頭観音は、必ずしも馬を多く飼っていたムラに多く建てられているとは限らない。たとえば下和田では、一六七七（延宝五）年に一〇一疋の馬が飼われていたにもかかわらず、馬頭観音はわずか一基しかない。それに比べて須山では、その数四六基と市域でもっとも多いが、建てられた年代を見ると明治期以降のものが半数以上を占めている。これは市域全体でもいえることだが、明治期以降に建てられたもののほとんどは、個人の屋敷に建てられたものである。つまり近代にはいって、その家の愛馬の供養を各家で行えるようになったということである。

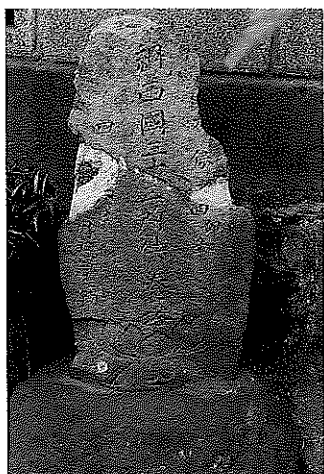
それではそれ以前は、どのような場所に建てられていたのか。富沢の馬頭観音は全部で一〇基ある。そのうち公民館の敷地に置かれているものが三基あり、いずれも延宝と宝暦年間のもので市内でも古い方の部類である。これらは、かつて現在の富沢公民館の一角に堂があり、その境内に祀られていたものである。また、富沢の上・中・下の各モヨリごとに祀られている馬頭観音は、それぞれ愛鷹山の山中や際に建っている。下モヨリの馬頭観音は、愛鷹山の登り坂（観音坂）の途中にあり、馬の足に灸をすえるツクリバという場所に祀られている。馬に灸をすえた日の晩は、観音講が行われたという。このように、馬頭観音はムラの共有地に共同祈願・供養を目的として建てられたものであったが、しだいに家ごとに供養することが流行したムラもあったのであろう。馬頭観音を造立しムラの共同祈願をした場所は、寺社や堂の敷地のほかムラの境や辻であり、そこは道祖神が建てられサイトヤキが行われる村の出入口でもあった。

（松田香代子）

伊豆島田地区



伊豆島田地区



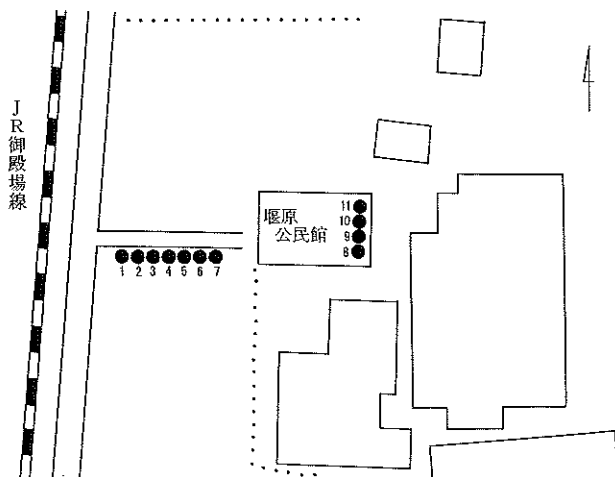
2 順礼供養塔（西）



1 馬頭観音



3-1 碑（殉国者慰霊碑）



3 堰原公民館



3-4 庚申塔



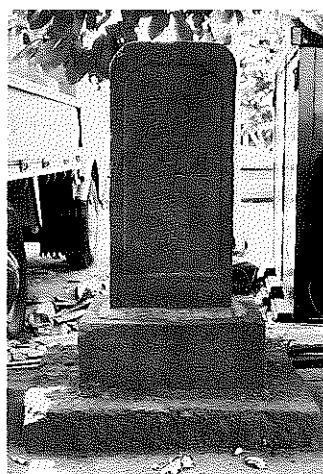
3-3 石灯籠



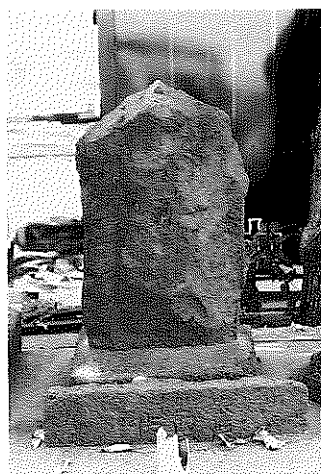
3-2 石灯籠



3-7 順礼供養塔（西）



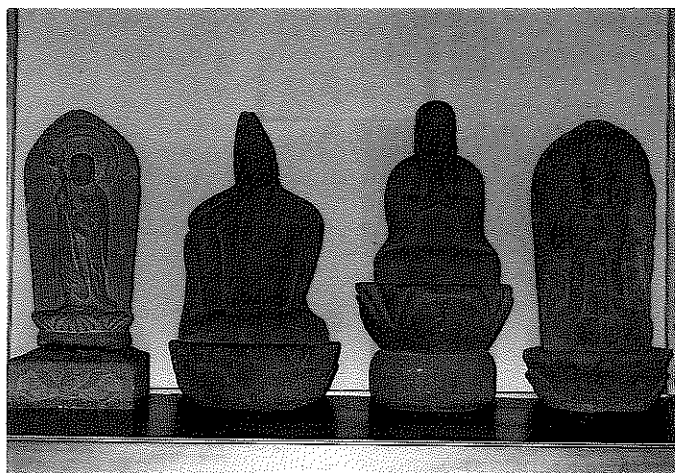
3-6 順礼供養塔（両国横道）



3-5 石造物（不明）



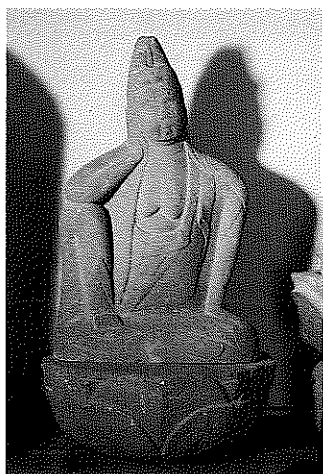
3-8 馬頭観音



3 埴原公民館内



3-11 地蔵菩薩（子安）



3-10 順礼供養塔（横堂）



3-9 観音菩薩



5-2 馬頭観音



5-1 石灯籠



4 石灯籠



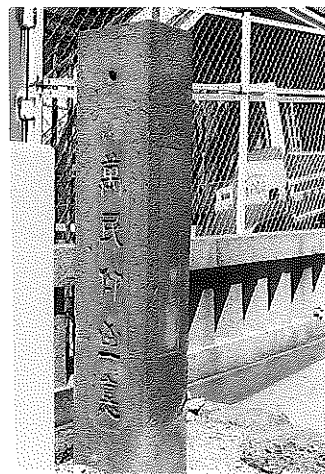
6 熊野神社



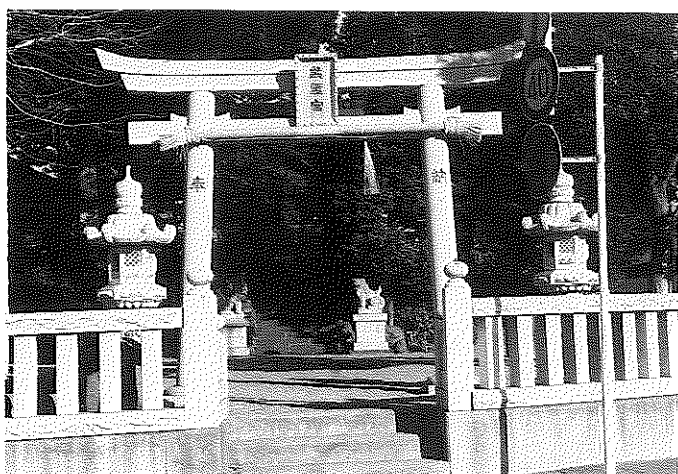
6-3 石灯籠



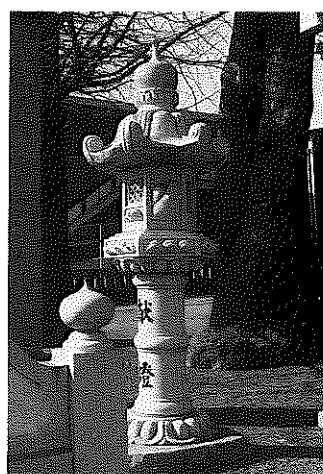
6-2 神社標石



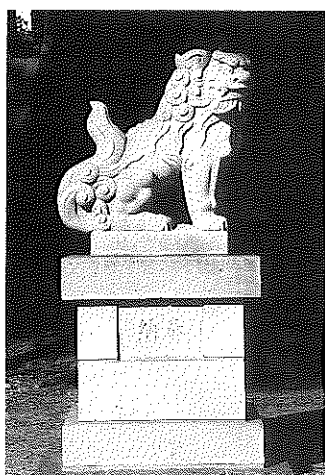
6-1 織立



6-5 鳥居



6-4 石灯笼



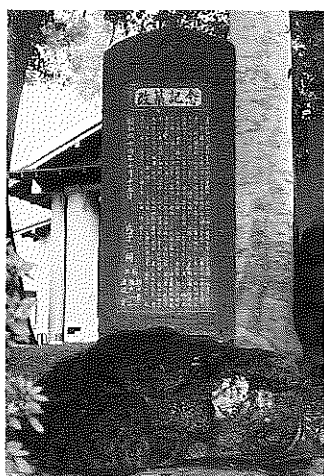
6-8 狛犬



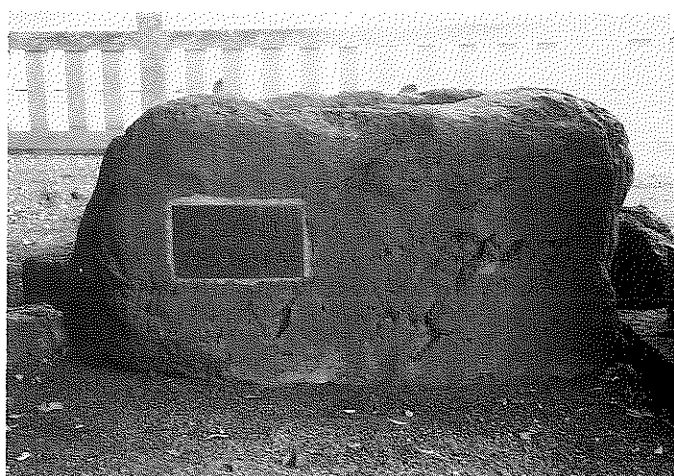
6-7 狛犬



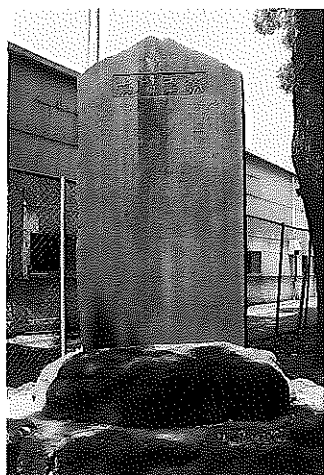
6-6 幟立



6-12 碑（改築記念碑）



6-9 手洗石



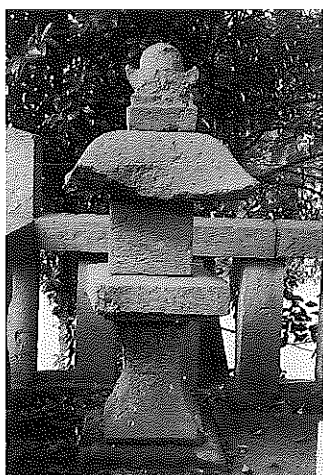
6-13 碑（熊野神社記念碑）



6-11 石灯籠



6-10 石灯籠



6-15 石灯籠



6-14 石灯籠



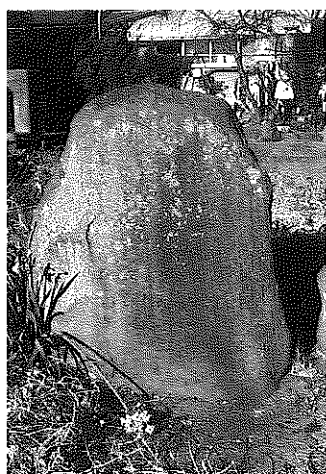
6-18 石灯籠（部分）



6-17 石灯籠



6-16 石灯籠



8-2 道祖神



8-1 道祖神



7 馬頭観音（道標）



10 諸神（イボ神）



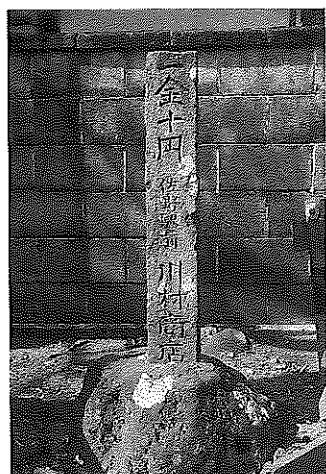
9 万霊塔



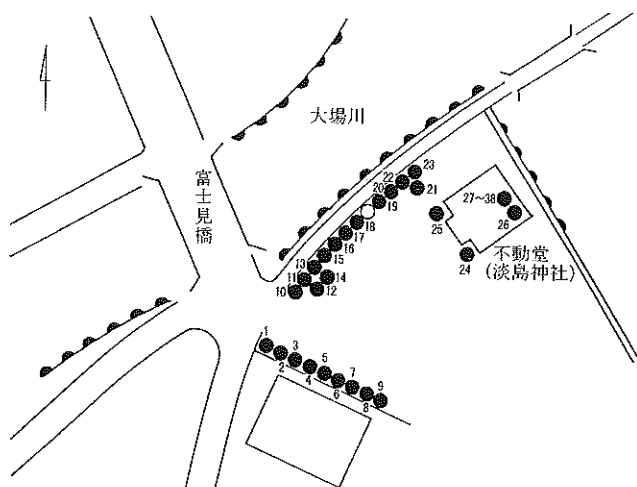
11-2 不動明王



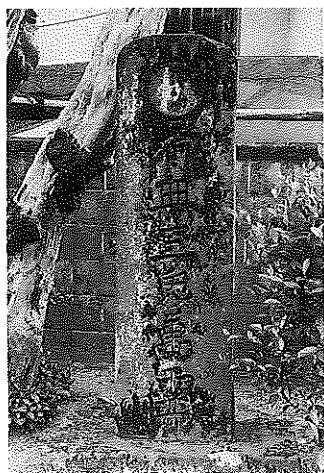
11-1 馬頭観音



12-1 碑（寄附金記念碑）



12 不動尊（淡島神社）



12-4 万霊塔



12-3 道供養塔



12-2 唯念名号塔



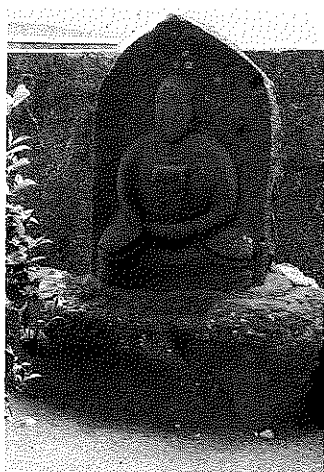
12-7 木食名号塔



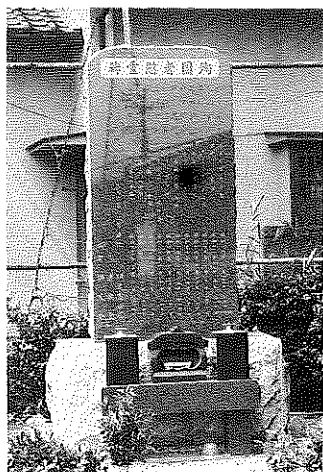
12-6 順礼供養塔（西）



12-5 念佛供養塔



12-10 道祖神



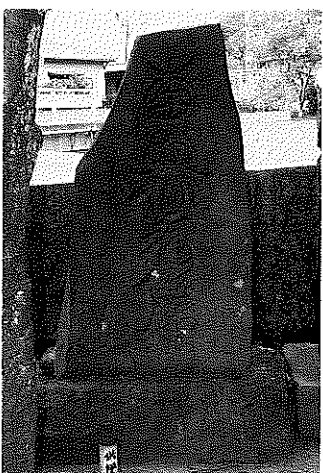
12-9 碑 (殉国者慰霊碑)



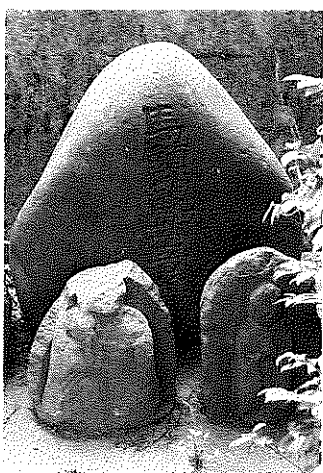
12-8 順礼供養塔 (西・坂・秩)



12-14 道祖神



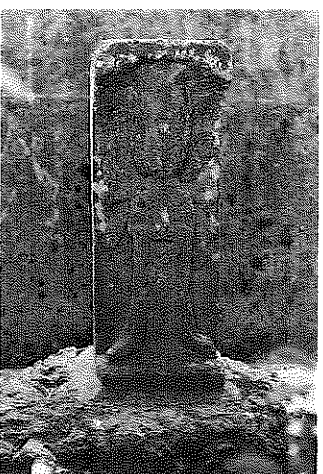
12-13 唯念名号塔



12-11 馬頭観音



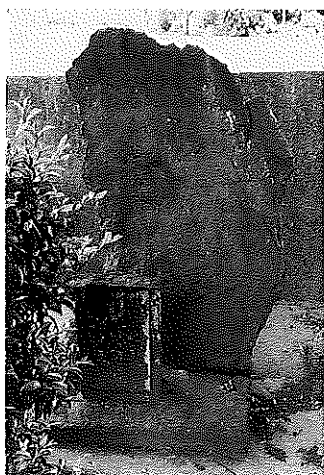
12-17 聖観音



12-16 馬頭観音



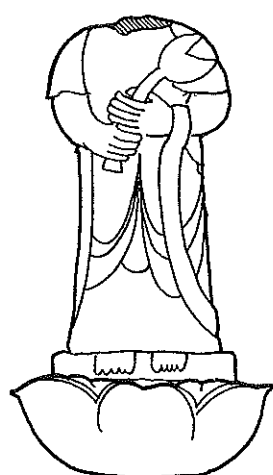
12-15 順礼供養塔 (西・秩・坂・横堂)



12-20 庚申塔



12-19 観音菩薩



12-18 聖観音



12-25 碑（建立記念碑）



12-24 石灯籠（部分）



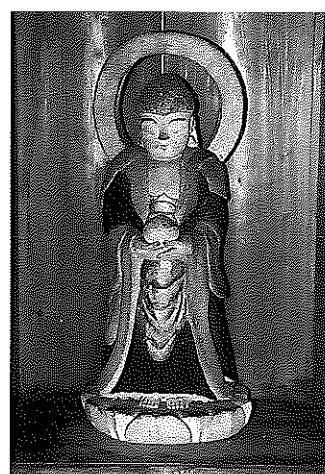
12-21 馬頭観音



12-28 石造物（十二神将）



12-27 石造物（十二神将）



12-26 地藏菩薩



12-31 石造物（十二神将）



12-30 石造物（十二神将）



12-29 石造物（十二神将）



12-34 石造物（十二神将）



12-33 石造物（十二神将）



12-32 石造物（十二神将）



12-37 石造物（十二神将）



12-36 石造物（十二神将）



12-35 石造物（十二神将）



13-2 地蔵菩薩



13-1 観音菩薩



12-38 石造物 (十二神将)



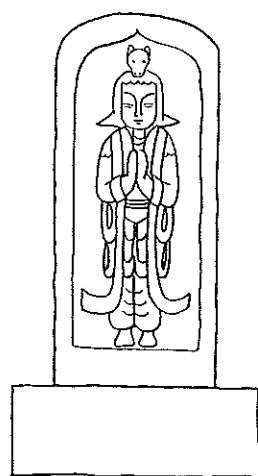
14 観世音菩薩



13-4 日参供養塔



13-3 順礼供養塔 (横)



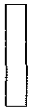
15 馬頭観音

伊豆島田地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
1	馬頭観音	舟型立像	文政10(一八二七)	96×68	(正) 文政十丁亥天 十二月吉日
2	順礼供養塔(西)	自然石	天保14(一八四三)	86×54	(正) □納西國三十三所供養塔 天保十四卯年 四□□六日 川口富右衛門 (中央部割れ目補修)
3-1	碑(殉国者慰霊碑)	板石	平成5(一九九三)	259×156	別記1(193頁)
3-2	石灯籠	灯籠	宝暦8(一七五八)	159×64	(正) 家 庚申天前 寶暦八寅天 六月吉祥旦 勘右衛門 權兵衛 友八 八郎右衛門 甚八 半兵衛 長左右衛門 李兵衛 定七 十蔵 (宝珠一部欠落 火袋・竿部補修)
3-3	石灯籠	灯籠		147×51	
3-4	庚申塔	自然石	享保6(一七二一)	120×104	別記2(194頁)
3-5	石造物(不明)	浮彫立像		67×40	(風化)
3-6	順礼供養塔 (両国横道)	櫛型	安永7(一七七八)	93×70	(正) 兩國横道観世音菩薩 (右) 安永七戌戌天 六月中五 仁左衛門母 源蔵内 善六内 (左) 水窪村 仁左衛門 同人内 弥平内 志主 甚七母 弥七母 一良右衛門母

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
3-7	順礼供養塔(西)	山型角柱	享保15(一七三〇)	79×44	(正) 奉納南無觀世音菩薩 (右) 西國三十三所 享保十五年 九月吉日 (左) 駿東郡堰原村 廣瀬三右衛門 渡邊半右衛門 藤原銀兵衛
3-8	馬頭観音	舟型立像		70×35	(備原公民館内)
3-9	観音菩薩	丸彫座像	元禄7(一六九四)	74×38	(背) 元禄七申戌年 八月廿五日 (台座) 観音 廣瀬氏女同行三人 施主 土屋氏女一人 (堰原公民館内)
3-10	順礼供養塔(横堂)	丸彫座像	宝永4(一七〇七)	69×41	(背) 横堂順礼 寶永四年亥 六月吉日 同行四人 皆是成佛 (堰原公民館内)
3-11	地藏菩薩(子女)	舟型立像		71×29	(堰原公民館内)
4	石灯籠	灯籠	昭和42(一九六七)	91×43	(正) 献燈 (左) 明治百年記念 渡辺広吉七十七才 二月刻建之 (笠・火袋部補修)
5-1	石灯籠	灯籠	昭和42(一九六七)	85×35	(右) 明治百年記念 七十七才 (笠・火袋部補修)
5-2	馬頭観音	舟型立像	大正4(一九一五)	64×31	(右) 施主 渡辺廣吉 (左) 大正四年五月建之

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
6-1	幟立		大正5 (一九一六)	176 × 38	(正) (神紋) 萬民仰主徳 (左) 大正五年十一月吉祥 世話人 瀬戸倉次郎 水口歌次郎 (右) 寄附者 水口仙三 水口善三 泉村茶畑 石工杉山佐十
6-2	神社標石	角柱	大正14 (一九二五)	306 × 149	(正) 熊野神社 (背) 大正十四乙年十月 瀬戸弁作寄進 増上寺大僧正信教書 石工 瀬戸兼太郎
6-3	石灯籠	灯籠	昭和63 (一九八八)	240 × 85	(正) 献燈 (背) 昭和六十二年十月吉日 奉納三菱アルミニウム(株)
6-4	石灯籠	灯籠	昭和63 (一九八八)	240 × 85	(正) 献燈 (背) 昭和六十二年十月吉日 奉納三菱アルミニウム(株)
6-5	鳥居	明神型	平成2 (一九九〇)	372 × 458	(正面額) 熊野宮 (左柱正) 奉 (右柱正) 納 (左柱背) 一九九十年平成二年十二月吉日 三菱アルミニウム(株) (右柱背) 裾野アルミニウム(株)
6-6	幟立		大正5 (一九一六)	169 × 38	(正) (神紋) 四國畏威靈 (右) 大正五年一月吉祥 寄附者 水口善三 水口仙三 (左) 世話人 水口歌次郎 瀬戸倉次郎 泉村茶畑 石工 杉山佐十
6-7	狛犬		昭和45 (一九七〇)	164 × 97	(正) 奉納 (背) 寄進 昭和四十五年八月吉日 裾野市伊豆島田 瀬戸貴一

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
6-16	石灯籠	灯籠	平成2(一九九〇)	214 × 93	(正) 献燈 (台座左) 甲十一回 (台座背) 1990拾甲田
6-15	石灯籠	灯籠		119 × 50	(正)  (宝珠・笠・竿一部欠落 風化)
6-14	石灯籠	灯籠	大正4(一九一五)	121 × 51	(正) 奉燈 (背) 大正四年十一月 水口幸吉建之 世話人 水口伊三郎 (宝珠・笠・中台・竿一部欠落 火袋補修 風化)
6-13	碑(熊野神社記念碑)	板石	大正4(一九一五)	292 × 132	別記4(194頁)
6-12	碑(改築記念碑)	櫛型	昭和44(一九六九)	254 × 136	別記3(194頁)
6-11	石灯籠	灯籠	享保14(一七二九)	142 × 61	(正) 奉納熊野権現 願主  享保十四己酉十一月吉日(火袋補修)
6-10	石灯籠	灯籠	享保14(一七二九)	154 × 48	(正) 奉納熊野権現 願主 水口源之口 享保十四己酉十一月吉日
6-9	手洗石	自然石	大正11(一九二二)	67 × 125	(正) 奉納 大正十一年七月十五日大祭 水口長吉
6-8	狛犬		昭和45(一九七〇)	159 × 76	(正) 奉納 (背) 寄進 昭和四十五年八月吉日 裾野市伊豆島田 水口仲次郎

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
6-17	石灯籠	灯籠	平成2(一九九〇)	214 × 93	(正) 献燈 (台座右) 中ノ一画 (台座背) 一六六〇拾四田 長持一拾十二田田
6-18	石灯籠(部分)	灯籠	寛政1(一七八九)	90 × 37	(正) 奉獻御宝前 願主 水口幸八 寛政元酉年九月 (残存 宝珠・竿・基礎部)
6-19	鳥居	明神型	延享3(一七四六)		(柱部) 明和乙酉年十二月吉日 施主村中 石工 北原園右衛門 同文右衛門 (基礎部) 延享丙寅年 中二月日 (倒壊 竿木・貫・柱・基礎部)
7	馬頭観音(道標)	浮彫立像	文化10(一八一三)	50 × 26	(正) 右奴ます道 左三し満ちち道 (右) 文化十四年十一月吉日 (左) 當村 市川權左衛門
8-1	道祖神(単体)	丸彫座像	昭和39(一九六四)	50 × 42	(背) 昭和三十九年一月 渡辺廣吉刻建 (一部補修)
8-2	道祖神	自然石		90 × 77	
9	万霊塔	自然石	貞享2(二六八五)	115 × 87	(正) 〇 萬霊塔 出 先祖代々諸精霊等 青石梅葉上座 貞享乙丑年 四月十有七日 了雲貞明大姉 元禄五申歲二月十八日
10	諸神(イボ神)	祠		28 × 29	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
11-1	馬頭観音	自然石		53 × 37	(正) 馬頭観世音  一年八月十日 水口政吉立之 (中央部割れ目)
11-2	不動明王	自然石		50 × 29	
11-3	石造物(お手付き石)	自然石		18 × 100	
12-1	碑(寄附金記念碑)	角柱	明治44(一九一)	125 × 62	(正) 一金十四佐野駅前川村商店 (右) 成田山不動堂建築寄附 (左) 明治四十四年十二月
12-2	唯念石是塔	自然石		207 × 138	(正) 南無阿弥陀佛 天下泰平 閉土安全 中講義 唯念(花押) (台座正) 郷中安全
12-3	道供養塔	自然石	享保17(一七三二)	93 × 61	(正) 為 道供養塔 享保十七壬子 十一月吉日 施主 全休
12-4	万霊塔	櫛型	延享1(一七四四)	166 × 96	(正) ○ 有無三界萬霊 (右) 延享元甲子天五月吉祥日 駿州伊豆島田村 (左) 嶋尾山西光寺現住林天桂代新造 為施主 流水貞元大姉 二世安樂
12-5	念佛供養塔	舟型立像	元禄7(一六九四)	121 × 49	(正) 奉造立志者豆葱三島與當御厨古沢村百日各夜念佛行者 宣元禄七甲戌天六月日當國富士郡比奈邑清養淨西 嶋田村 (地藏菩薩)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
12-6	順礼供養塔(西)	笠唐破風 角柱	元禄13(一七〇〇)	157×64	別記5(196頁) (宝珠一部欠落)
12-7	木食名号塔	自然石	文政2(一八一九)	111×79	(正) 木食觀正 文政二卯歲 仲春二十一日 土屋與兵衛 瀬戸宇右衛門 (背) 當所講中 水口傳右衛門 (上部欠落・中央部割れ目補修)
12-8	順礼供養塔 (西・坂・秩)	笠唐破風 角柱	宝永4(一七〇七)	158×58	別記6(196頁) (笠・角柱一部欠落)
12-9	碑(殉国者慰靈碑)	板石	平成4(一九九二)	248×154	別記7(196頁)
12-10	道祖神(单体)	舟型座像	寛延3(一七五〇)	90×78	(正) 寛延三庚午年 五月吉日
12-11	馬頭觀音	自然石	文化4(一八〇七)	80×75	(正) 馬頭觀世音菩薩 文化四卯天 十一月吉日 施主村中 世話人 久左衛門 吉兵衛 平左衛門
12-12	地藏菩薩	浮彫座像		33×33	(光背・頭部欠落)
12-13	唯念名号塔	自然石	嘉永8(一八五五)	153×108	(正) 南無阿弥陀佛 邑内安全 嘉永八卯年八月 唯念(花押) (左) 念佛講中
12-14	道祖神(单体)	浮彫立像		40×28	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
12 15	順礼供養塔 (西・秩・坂・横堂)	山型角柱	享保16(一七三一)	140 × 66	(正) 南無觀世音菩薩西國供養塔 (右) 奉供養横堂塔 (左) 奉供養父秩坂東塔 (背) 享保十六辛亥年 四月吉日 願以此功德 普及於一切 我等與衆生 皆俱成佛道 施主敬白
12 16	馬頭觀音	舟型立像	大正9(一九二〇)	79 × 80	(右) 大正九年十一月之建 (左) 願主 小泉村伊豆島田 水口松五郎
12 17	聖觀音	舟型立像		112 × 45	(正) 元 申年 十八日 (中央部割れ目補修)
12 18	聖觀音	丸彫立像		49 × 25	(頭部欠落)
12 19	觀音菩薩	舟型立像		43 × 25	
12 20	庚申塔	自然石	貞享4(一六八七)	126 × 82	(正) ○ 奉供養 積善米餘慶 修因致果 庚申多所益 皆是願窓 貞享四丁卯曆 十月十五日
12 21	馬頭觀音	舟型	宝曆6(一七五六)	27 × 68	(正) 馬頭觀世音菩薩 寶曆丙子天 五月吉祥日 (上部欠落)
12 22	石灯籠(部分)	灯籠	宝曆6(一七五六)	113 × 71	(正) 奉納石燈籠一基 宝曆丙子年 六月吉日 伊豆島田 講中 (中台・火袋欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
12 ― 31	石造物(十二神将)	丸彫立像		38 × 20	(不動尊・淡島堂内)
12 ― 30	石造物(十二神将)	丸彫立像		39 × 17	(不動尊・淡島堂内)
12 ― 29	石造物(十二神将)	丸彫立像		39 × 17	(不動尊・淡島堂内)
12 ― 28	石造物(十二神将)	丸彫立像		38 × 17	(不動尊・淡島堂内)
12 ― 27	石造物(十二神将)	丸彫立像		38 × 19	(不動尊・淡島堂内)
12 ― 26	地藏菩薩	丸彫立像		66 × 28	(不動尊・淡島堂内)
12 ― 25	碑(建立記念碑)	笠付角柱	昭和3 (一九二八)	59 × 30	別記9 (196頁)
12 ― 24	石灯籠	灯籠	大正2 (一九一三)	102 × 47	(正) 献燈 (右) 大正二年三月建之 水口恵作 (宝珠・笠一部欠損 中台・火袋欠落)
12 ― 23	石灯籠(部分)	灯籠	宝永3 (一七〇六)	81 × 36	別記8 (196頁) (残存 竿・基礎部)

13 ┃ 2	13 ┃ 1	12 ┃ 38	12 ┃ 37	12 ┃ 36	12 ┃ 35	12 ┃ 34	12 ┃ 33	12 ┃ 32	番 号
地藏菩薩	観音菩薩	石造物(十二神将)	石造物(十二神将)	石造物(十二神将)	石造物(十二神将)	石造物(十二神将)	石造物(十二神将)	石造物(十二神将)	種 類
舟型立像	舟型立像	丸彫立像	丸彫立像	丸彫立像	丸彫立像	丸彫立像	丸彫立像	丸彫立像	形 状
									造 立 年
63 × 32	58 × 26	37 × 19	37 × 18	40 × 17	39 × 20	41 × 19	40 × 17	39 × 17	法 量 (cm)
(左) 水口氏	(背) 水口氏								銘 文 (備 考)
		(不動尊・淡島堂内)	(不動尊・淡島堂内)	(不動尊・淡島堂内)	(不動尊・淡島堂内)	(不動尊・淡島堂内)	(不動尊・淡島堂内)	(不動尊・淡島堂内)	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
13-3	順礼供養塔(横)	櫛型	寛政12(一八〇〇)	64×37	(正) 横道供養塔 (右) 寛政十二庚申歳建立 水口幸八母 鈴木源七妻 (左) 天保八丁酉歳再建之 水口伊八母 米山七左衛門
13-4	日参供養塔	丸彫座像		121×50	(正) 日参供養塔 (頸部補修/地藏菩薩)
14	観世音菩薩	山型角柱	享保15(一七三〇)	83×40	(正) 南無大悲観世音菩薩 (右) 三男萬霊等 (左) 享保十五庚戌十月吉日 (右) 文政十亥歳八月吉日 (左) 施主邑中 世話人 水口半蔵 (線香立) 奉納 水口富雄
15	馬頭観音	浮彫立像	文政10(一八二七)	81×42	

別記1 碑(殉国者慰霊碑)

(正) 殉国者慰霊碑

土屋磯吉 東京 明治十三年九月二十八日 二十三才
土屋信俊 中支 昭和十八年十二月二十九日
二十二才 廣瀬武雄 北支 昭和十九年五月十七日
二十五才 柏木次男 マリアナ島 昭和十九年九月
三十日 二十四才 柏木正男 比島沖 昭和十九年
十月二十五日 三十才 吉田傳 ラバウル
昭和二十年二月十六日 三十才 渡邊辰夫
ボルネオ島 昭和二十年六月二十一日 二十七才
(背) 戦後四十有余年すぎし今、我が国も民主主義の平和な
国に生まれかわり永遠に続くことを祈る。顧みれば其

の昔、日清、日露、第一次大戦、満州、支那事変、第二次世界大戦遂に太平洋戦争に突入、有史以来二千有余年初めて敗戦、戦後食料物資等万物無き焦土より立ち上がり、今日の繁栄に至るは堰原区より二十世代の若人七柱、父母弟妹を後にして、遙か遠く嚴寒の地の果て、或は灼熱の南方又は海洋上に祖国の為の散華した勇士のお陰である。御霊は靖国の社に神として鎮座し、我々を見守っている。ときに区民相諮り再び暗い過去のなきようにと念じ、殉国只一筋に戦った御霊安らかにと思ひ、世は明治、大正、昭和、平成と移り変われど後世に伝えるべく之を建つ。

平成五年三月吉日 堰原区 遺族会

〔花立〕献華 寄贈 昭和会

別記2 庚申塔

(正) ○ 青面金剛明王 村之居民守庚申多歳今茲石以遂供

養願 以此功德福壽延長災難消除矣

享保六辛丑天 八月十四日 施主 渡邊平八

杵山想兵衛 市河権兵衛 廣瀬源七 渡戸半右衛門

土屋喜八 廣瀬勘左衛門 仁杵源兵衛 岡彦九良

海光淨印上座

別記3 碑 (改築記念碑)

(正) 改築記念

當熊野神社は元伊豆島田村字屋敷田に約一二七坪の境内を有する宮有地に鎮座されていたが 明治二十七年二月二十日現在地の山之神と合祀され 以来七十五年の星霜を亅た 此の間本殿の新築拜殿の補修修繕と数々の工事を施工して来たか 昭和四十三年七月頃より腐朽とみに甚だしく補修も難かしい状態となり 氏子一同協議の結果改築鉄筋コンクリート造とする 資金は宮田を売却して充当することに決した 扨て此の宮田の由来は購入の時期及氏名等も記録にない 伝説によると昔の若い衆が行燈の光を頼りに協同で夜間作業にて葺細工に精励 その代金を基金として伊豆島田村西光寺の無盡に加入し何年か後に一反三畝五歩の田圃を購入 当初は若い衆の共同耕作であつたが其の後伊

別記4 碑 (熊野神社記念碑)

(正) 敬神和協

豆島田村に寄贈され村民は宮田と称し青年の試作田とし近年は伊豆島田堰原の氏子が輪番に耕作し何れも熊野神社の費用に充当して来たものである 思えば名も知れない若い衆の德行により此処に立派なる御社が目出度く完成された 私達氏は前人の遺徳をしのび碑を建て永世に語り継ぎたい

昭和四十四年十月十五日 氏子一同

石工 瀬戸貴一 瀬戸一二 渡辺實

靜岡縣駿東郡小泉村伊豆島田區有二大事件一曰熊野神社伐木事件二曰箱根山入會秣場事件紛糾多年區民深憂焉熊野神社祀諸冊二尊蓋天正中所創祀也明治二十三年氏子相議欲官有社地編民有以供神社維持之資是歳二月請願三月允許同二十六年更有神社併合之議欲熊野神社合祀同區山神社是歳九月請願十月允許翌二十七年社殿改築告成先是熊野社内有樟樹欲賣以充維持之資氏子總代土屋豐三郎水口善八藤原龜次郎之三氏水口仙三水口常平土屋松軒水口佐十郎米山辰藏水口米藏岡田久平市川政吉柏木彦八渡邊治郎平等之諸氏專當事與榎本某約鬻之樟樹三株價格金九百參拾圓也請官拮令未下而斧斤既入林三樹仆地時同年一月二日也偶有以事訴官者嚴命一下直停伐木且保管之一鄉失色於是審理數回鞠問太急殆觸法加之某氏亦促前約不止土屋氏辯疏最力至忘寢食

三月十七日幸事解約行衆始開眉於是制資金保管之法託之土屋氏即舉資金替銀行券講利殖之法同三十八年依御料林野特賣規程以區內御料林八畝八步編山神社境內古木鬱蒼大加森嚴大正四年陞爲神饌幣帛指定神社稜威赫奕民益敬之子總代之勞足多焉就中如土屋氏自明治十六年至大正三年前後三十有三年終始當難局毫不辭勞苦非敬神之念深者奚能如此乎蓋伊豆島田區民敬神之風其所由來遠矣傳云明歷元年區內青年相結始成一社是本區青年會之濫觴也後數年熊野神社祭典必使青年行之而如其祭費一出於氏子之寄附寬文十二年青年相謀廢寄附各勞役得錢以充費爾來青年協心戮力春採薪柴夏刈草萊秋伐萩條冬槌藁稈或作沓或絢繩積以供資後加盟無盡講延寶元年以落札金參兩貳朱購水田壹段參畝四步同四年寄進之熊野神社永爲供米之料爾後每年十月十五日行祭典戶戶頒供飯且祝且樂可以見其一斑焉箱根山入會秣場關伊豆島田區之興廢而本區民之入秣場者必不得不由內野徑路內野者佐野德倉幸原三村共有之原野也寬政以降屢生紛議通路爲杜絕訴之官不利每年納米若干俵以爲通路之稅可謂封建之餘弊矣王政維新之後世態一變撤關毀塞唯憂交通不便於是乎欲破古來之因襲廢前例三村不肯更極紛擾官懇諭數次妥協遂成即納一時金七拾圓以通路爲四村之共有時明治十年也尋從三村之議請官民有之何圖及令下歸三村之有伊豆島田區民大憂之再訴官請爲四村之共有否寧爲官有官亦察情爲之四村共有編地籍佐野村實明治十三年也於是宿昔之志始成區民漸安堵而當事

最致力者人民總代渡邊治郎平米山辰藏用係水口定八戶長水口傳平之四氏也區民德之抑敬神崇祖之風國粹之所由來和衷協同之俗爲富國強兵之素因豈啻本區之美習亦實所以發揚國體精華也頃者伊豆島田區民胥謀欲建碑以傳之於不朽介村長渡邊伊三郎氏青年會支部長水口歌次郎氏來請余文乃据狀叙梗概云爾

大正四年十月初九 靜岡縣靜岡師範學校教諭從七位 森本常吉撰文 靜岡縣靜岡師範學校校長正六位 勲六等星菊太篆額 同校教諭水野守豐書

(背)

大正四年十月建之 村社熊野神社社掌清水寬良

氏子兼社部渡邊澤太郎 氏子總代柏木隣藏 水口善八

氏子總代兼資本金監理人土屋豐三郎

氏子席次抽籤順 米山竹次郎 渡邊峰藏 廣瀬安太郎

水口藤太郎 土屋作藏 水口弥三郎 水口くま

二村平作 水口りつ 水口歌次郎 鈴木喜代藏

水口豐次郎 水口惠作 鈴木林次 水口伊三郎

渡邊ゆき 廣瀬弥助 鈴木巳之吉 渡邊元次郎

川口太吉 米山寅藏 山口由太郎 市川滝次郎

渡邊福太郎 渡邊幾太郎 米山角平 鈴木金藏

飯田文吉 小林德藏 水口仙三 諏訪良助 水口政吉

水口仁三郎 水口佐十郎 渡邊伊三郎 松浦與市

富田彌作 渡邊清吉 瀨戶倉次郎 鈴木市太郎

渡邊啓次郎 上杉信 水口龜吉 瀨戶龍太郎

水口傳助 廣瀬善吉 水口善藏 米山平七 藤原喜十

藤原賢二 鈴木彦太郎 市川邦太郎 水口善三

市川常吉 鈴木金次郎 水口銀作 米山國太郎
土屋富藏 市川幸作 渡邊久次郎 瀬戸淺次郎
氏子兼石工瀬戸兼太郎 氏子兼世話人土屋清人

別記5 順礼供養塔(西)

(正) 奉供艱南無觀世音菩薩 敬白

(右) 往日順礼西國三十三所故

爲諸願成就尊像造建 焉畢

(左) 元禄十三庚辰曆 七月吉日

駿州駿東郡 佐野村 鈴木氏 伊豆島田村 水口氏
豆州君沢郡 幸原村 中山氏 同村 高田氏

別記6 順礼供養塔(西・坂・秩)

(正) 奉供艱南無觀世音菩薩

(右) 右意趣者西國坂東父部 順礼畢請清衆伸其志者也

于宝永四丁亥龍集

(左) 願以這箇功德父母一切衆生 俱現世安穩後生善處

七月十日 施主敬白 伊豆島田 米山八右衛門

別記7 碑(殉国者慰靈碑)

(正) 殉国者慰靈碑

水口茂夫 ガダルカナル島 昭和十八年一月二十四日
二十四才 米山大甫 サイパン島海上 昭和十八年
十二月五日 三十六才 二村緑 ニュギニア ノコボ
昭和十九年二月十日 三十一才 鈴木栄一

ハルマヘラ海上 昭和十九年五月二十日 二十五才
水口静海 ビルマ モーレ 昭和十九年七月十四日

二十一才 市川忠雄 三江省鶴立県(中国)

昭和十九年七月十五日 四十四才 米山忠男

フィリッピン沖 昭和十九年十月二十五日 二十一才

上杉一夫 フィリッピン ホロ島 昭和二十年一月

七日 三十三才 二村頼武 湖南省衛山(中国)

昭和二十年一月二十九日 二十六才 酒井唯男

中支漢口(中国) 昭和二十年二月二日 三十四才

水口房雄 満州延吉(中国) 昭和二十一年三月二日

五十四才 平成四年(一九九二年)三月建之

伊豆島田区 遺族会 協賛郷友会

別記8 石灯籠(部分)

(正) 奉納燈籠之供養 宝永三丙戌年 七月十五日

駿州伊豆島田村 水口弥兵衛

(台座) 施主 水口氏 五右衛門 自縁 妙永 吉兵衛

金蔵 瓦左衛門 □た 香□ 貞箕 □川 者川

妙傳 妙覚 妙鏡 妙貞 妙壽 妙性 道樹

別記9 碑(建立記念碑)

(正) 碑

(角柱正) 小泉村伊豆島田字梨ノ木百七十七番地ニ在リシ堂
宇ハ間口八間奥行五間ニシテ堂内ニ不動尊像并二十二
薬師如来ノ尊像ヲ奉安シ在リシニ明治卅一年三月十七

日午后一時隣接家ヨリ發火セシ為メ類焼ニ罹リ不動尊
ハ辛シテ救ヒ出セシモ藥師如來ノ御像ハ焼失セリ尔來
信徒ノ釀金ヲ以堂宇再建セントシテ工事ニ着手シ明治
四十年八月中工事竣成スルニ至リタルヲ以テ不動尊ハ
直ニ安置シ尚ホ其后十數年ヲ經テ藥師如來ノ尊像ヲモ
奉安セントシテ漸ク昭和元年一

(角柱左) 月三十日藥師如來ノ尊像出來シ茲ニ奉安スルコト
ヲ得タリ依テ聊カ其經歷ヲ勒シ後世ニ傳フ

昭和三年二月廿八日之立 發起人 水口龜吉

水口藤太郎 米山竹次郎 上杉信

(角柱背) 三島六反田 石工 石田

追補
深良地区石造物一覧表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
83	題目塔	自然石	平成5(一九九三)	250×255	(正) 南無妙法蓮華經 (背) 平成五年五月十五日 要俊千山
84-1	鳥居	明神型	平成8(一九九六)	301×373	(正面額) 山神社 (右柱正) 奉 (右柱背) 平成六・七年度上須区区长 世話人代表 勝又繁和 (左柱正) 納 (左柱背) 完成 平成八年十月吉日
84-2	石灯籠	灯籠	平成8(一九九六)	167×70	(正) 献燈 (背) 完成平成八年十月吉日 寄贈 施主渡邊工業(株)代表取締役社長渡邊康一
84-3	石灯籠	灯籠	平成8(一九九六)	167×70	(正) 献燈 (背) 完成平成八年十月吉日 寄贈 施主渡邊工業(株)代表取締役社長渡邊康一
85	文学碑(句碑)	自然石	平成1(一九八九)	93×162	(正) いつ来ても ふるさとはよし 五月富士 一透 同 (背) 碑文 明治二十二年小学校がこの地に創立し百年になる。この間多くの苦難を乗り越えてよき人材を育成した 私たちは、ここに先人の偉業を偲び心を新たにするため、本校出身の俳人勝又一透先生の「故郷を讃える句」を石に刻み建立した。平成元年十一月五日 深良小学校百周年 記念事業実行委員会 裾野市深良財産区
86	文学碑(歌碑)	自然石	平成5(一九九三)	228×231	(正) 神山の秋倉家にやとりて くわくこうの 聲まちわふる タベルて 四方乃山より ひぐらしきこゆ 順 (背) 昭和卅八年七月廿日 川田順 八十一叟 平成五年七月二十日 富士に学ぶ会建之

公文名地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
26	馬頭観音	舟型立像	嘉永2 (一八四九)	64×33	(正) 嘉永二酉年二月吉日 當村 念佛講中
27	碑 (花咲杉原野開墾 記念碑)	板石	昭和17 (一九四二)	262 × 204	(正) 記念碑 駿東郡泉村公文名料金使用地俗稱白奥之平至花咲杉原野ハ往古 來ヨリ箱根竹密生シ居レリ自昭和元年頃同竹結實枯死ス同時ニ野苺繁茂 シ荒廢ス區民ハ同三年頃ヨリ初集會毎ニ焼拂馬草場ト爲事ヲ決定シ又自 村當局官行造林ト爲事ヲ奨メラルルモ應セズ在再スル事約十ヶ年也而シ テ昭和十四年渡邊國作氏區長ニ就任スルヤ氏ハ日支時局重大ノ折柄是ヲ 放任スルニ忍ズ直チニ之ガ整理ニ着手此ノ資源ヲ開發シ本區基本財産造 成ト國家要求ノ増産ニ爲應本區總會之決定ニ基ツキ是ガ整理案ヲ立協議 會ノ協賛ヲ得テ部農會長養蠶實行組合長ト相諮リ同志三十三名ヲ得テ紀

87	諸神 (オシヤゴツサン)	祠	大正1 (一九一二)	89×44	(右) 大正元年 十一月二十五日 南堀 最寄中 再建
88 1	諸神 (地神)・水神塔	自然石	大正7 (一九一八)	95×67	(正) 南無妙法蓮華經 地神 水神 觀世音菩薩 八大龍王 大正七年 三月建立
88 2	諸神 (音女大神)	舟型	昭和9 (一九三四)	69×34	(正) 音女大神 昭和九年八月 二十八日建之

茶畑地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
72	碑 (忠魂碑)	角柱	昭和16 (一九四一)	197 × 120	(正) 忠魂碑 (背) 昭和十四年七月十五日木更津海軍機遭難之地 銘曰 人生不長此身不輕 丈夫從軍功空不還 名利不急自若悠々 青山到處將骨可埋 諸氏如斯惟忠惟孝 偉勳赫々千歲不朽 殉職者 廣島縣三原市 海軍中佐正六位 勲四等功三級 菅久恒雄 德島縣海部郡川東村 海軍少佐從六位 勲五等功四級 小川 威

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
					(背) 公文名區長渡邊國作 實行組合長渡邊賀春 部農會長高村爲雄 役員宮崎肇作 同室伏壽雄 同高村幾太郎 同井草夏雄 同高村竹雄 同勝又閑太郎 室伏長康 室伏茂市 渡邊松一 高村清策 勝又弘 藤江幸一 芹澤長作 芹澤吉藏 増田佐平 井草梅吉 土屋喜作 土屋言智 赤松久雄 高村林作 高村榮次郎 勝又幸作 赤松彌太郎 渡邊清作 有井源一郎 勝又釜太郎 勝又理一 高草幾太郎 高草朝吉 勝又藤三郎 昭和十七年四月 渡邊輝寶刻 元二千六百年紀念事業トシテ同年十一月是ガ開墾ニ着手同十五年三月成 功セリ是ガ爲政府ヨリ多額ノ助成金ヲ下附セラレ以後年々數十圓収穫ニ 溶ス事ヲ得益多大也依而同志相諮リ紀念碑ヲ建立シ其功ヲ後世ニ傳フル 者也

葛山地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
51	碑 (濱折場橋架設記念碑)	自然石	明治43(一九一〇)	115×80	(正) 濱折場橋 発口人 土屋甚平 賛成人 御宿金吾外三百名 明治四十二 月三日 架設 石工三谷長義 (平成八年発堀)

73 1 2	聖観音	舟型立像	74 × 40	73 1 1	山の神塔(石祠) 祠
北海道余市郡大江村 海運航空兵曹長 勲七等功五級 鈴木静助 宮城縣志田郡敷玉村 海軍一等航空兵曹勲七等功六級 大崎忠雄 福島縣伊達郡立子山村 海軍一等航空兵曹勲七等功六級 三浦只夫 茨城縣眞壁郡眞壁町 海軍二等航空兵曹勲八等功七級 飯泉孝之助 静岡縣小笠原郡平田村 海軍二等整備兵曹勲七等 松本辰次 茨城縣東茨城郡澤山村 海軍二等整備兵曹勲八等 小林 茂 昭和十六年五月十五日帝國在郷軍人會泉村分會 建之					
(一部欠落)					

